

CHIBA UNIVERSITY INTEGRATED REPORT

千葉大学
統合報告書

2020



CHIBA UNIVERSITY

CONTENTS

CHIBA UNIVERSITY INTERGRATED REPORT 2020

千葉大学憲章	02	財務情報	
VISION CHIBA UNIVERSITY 2015-2021	04	令和元事業年度決算	36
学長メッセージ	05	01 貸借対照表の概要	38
歴史・沿革	06	02 損益計算書の概要	40
千葉大学の価値創造プロセス	08	03 財務指標	42
新型コロナウイルス感染症への対応	10	04 セグメント情報	44
事業活動			
01 Global	14		
02 Research	18		
03 Innovation	22		
04 Branding	26		
05 Synergy	28		
千葉大学基金	30		
医学部附属病院	32		



千葉大学



千葉大学憲章

CHIBA UNIVERSITY CHARTER

■ 千葉大学の理念

つねに、より高きものをめざして

千葉大学は、世界を先導する創造的な教育・研究活動を通しての社会貢献を使命とし、生命のいっそうの輝きをめざす未来志向型大学として、たゆみない挑戦を続けます。

■ 千葉大学の目標

私たち役員と教職員は、上記の理念のもと、自由・自立の精神を堅持して、地球規模的な視点から常に社会とかがわりあいを持ち、普遍的な教養(真善美)、専門的な知識・技術・技能および高い問題解決能力をそなえた人材の育成、ならびに現代的課題に応える創造的、独創的研究の展開によって、人類の平和と福祉ならびに自然との共生に貢献します。

01 私たちは、学生が個々の能力を発揮して「学ぶ喜び」を見だし、鋭い知性と豊かな人間性を育ていく自律成長を支援するために、最高の教育プログラムと環境を提供します。千葉大学は、学生と私たちがともに学ぶ喜びを生きがいと感じ、ともに成長していく知的共同体です。

02 私たちは、学生とともに、社会で生じるさまざまな問題の本質を、事実を踏まえて深く考察し、公正かつ誠実な問題解決に資する成果を速やかに提供して、社会と文化ならびに科学と技術の発展に貢献します。

03 私たちは、総合大学としての多様性と学際性を生かし、国内外の地域社会・民間・行政・教育研究諸機関と連携して、領域横断的研究と社会貢献を積極的に推進します。

04 私たちは、各人の個性・能力・意欲および自主性が継続的に最大限発揮され、意欲ある人材が積極的に登用される仕組みと環境を構築し、時代の変化に応じて柔軟に大学を運営します。

ビジョン

VISION

GLOBAL

国際社会で活躍できる次世代型人材の育成

- 国際未来教育基幹の創設による世界水準の教育実践と次世代型人材育成
- 「グローバル千葉大学の新生」(スーパーグローバル大学等事業)の着実な実施
- 国際的なネットワークの構築による教育研究拠点の創成

RESEARCH

研究三峰(トリプルピークチャレンジ)の推進

- グローバルプロミネント研究基幹の創設による独創的な次世代研究への戦略的支援
- 亥鼻キャンパス高機能化構想による治療学創成に向けた未来医療研究拠点形成
- 文理の枠を超えた融合型研究の推進

INNOVATION

次世代を担うイノベーションの創出

- イノベーションの創出に向けた産業連携研究の推進・強化
- 研究成果の社会実装へ向けた知的財産の確保と活用
- イノベーション創出人材の育成と組織改革

BRANDING

千葉大学ブランディングの強化

- 卓越した教育・研究力による国際的な信頼の向上
- 戦略的広報活動の推進
- 卒業生・企業・社会等との連携強化

SYNERGY

教職員による協働体制の強化

- 戦略的な大学運営に向けたガバナンス機能の強化
- 多様な人材(ダイバーシティ)の活用による教育研究活動の活性化
- リスクマネジメントシステムの充実

学長メッセージ

MESSAGE from PRESIDENT

世界に輝く未来志向型の総合大学へ!

千葉大学は、昭和24年に5学部から成る新制国立大学としてスタートし、現在では10学部と多数の大学院や教育・研究センター等を有する総合大学となっています。その間の平成16年に国立大学は法人化され、以降は一つの独立した大学法人として、独自のビジョンに基づく教育研究面での機能強化を積極的に推進してきました。

第3期中期目標期間が始まる平成28年度からは、「卓越した成果を創出している海外大学と伍して全学的に卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を中核とする国立大学」として、文理融合型の教育研究活動を強力に推進しています。特に研究面ではグローバル・プロミネント研究基幹を設置して学内の特色ある融合型研究を支援するとともに、教育面では国際教養学部を新設してグローバル社会で活躍できる個性豊かな次世代型人材の育成を加速させています。さらに本年度から学生の全員留学やコミュニケーション英語教育の強化を含むグローバル人材育成“ENGINE”プランを開始しました。ただし、海外留学の取組は新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により一時中断しています。

このような教育研究面での機能強化に向けた改革を継続的に推進していくには、強固な財務基盤の構築が必要不可欠となります。しかし、安定的な財源である国からの運営費交付金は、法人化以降減額され続けています。そこで、昨年度には財務基盤の強化に向けて新たに学術研究・イノベーション推進機構(IMO)を設置して、外部資金の戦略的な獲得活動や産学連携研究の支援活動を強化しています。

この「千葉大学統合報告書2020」には、日ごろから千葉大学に対してご支援、ご協力をいただいている皆様に本学への理解を深めていただくことを目的として、毎年の財務情報とともに教育・研究・社会貢献を中心とした事業活動をまとめました。本冊子が、千葉大学の現状や活動内容の理解に役立つことを願っています。

そして、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人千葉大学 学長

徳久 剛史

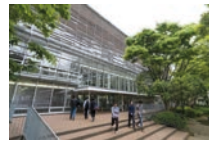
現在から未来に向けて

置されました。当時の地域への還元が社人材輩出と大学病院した。

日本のグローバル人材育成と革新的イノベーション創出が重視される中、千葉大学ビジョン、TOKUHISA PLAN策定、国際教養学部の設置及びENGINEの取組等を通して社会貢献と挑戦を続けてまいります。



理学系総合研究棟竣工



アカデミック・リンク・センター竣工

2004
千葉大学
創立50周年

国立大学法人
千葉大学

- 環境ISO14001認証取得
- 医薬系総合研究棟I竣工

2011
医薬系総合研究棟II竣工

2012
イングリッシュハウス設置

2013
環境ISO50001認証取得
(国立大初)
旧コミュニケーション
マーク制定



2015
千葉大学ビジョン策定
TOKUHISA PLAN策定
コースナンバリング
の導入



創立70周年



千葉大学マスコット

2020

千葉大学グローバル人材育成「ENGINE」



- 病院新中央診療棟竣工
- アカデミック・リンク松戸完成
- 総合国際学位プログラムの設置
- 医学系総合研究棟竣工

千葉大学
創立100周年

教育学部
150周年

看護学部
50周年

1999

2004

2009

2018

2019

2020

2021

2022

2024

2025

2026

2031

2049

医学部
135周年
同窓会館建設

園芸学部
100周年
戸定ヶ丘
ホール建設

理学部
50周年

千葉ヨウ素資源
イノベーション
センター竣工

工学部
100周年

墨田キャンパス
設置

医学部
150周年

国際教養学部
10周年

文学部
50周年
法政経学部
50周年

国際教養学部2016

- 飛び入学受け入れ開始(日本初)
1998年
- 柏の葉キャンパス設置
1991年

2017
バンコク・キャンパス設置

- グローバルプロミネント研究基幹の設置
- SULAの配置
- 6ターム制の導入
- 臨床研究中核病院に承認
- サンディエゴ・キャンパス設置
- ベルリン・キャンパス設置

法政経学部の設置

1960

1982

2014

2016



千葉大学旗



やよいの鐘(創立30周年事業)



千葉大学病院新外来診療棟竣工



CHIBA UNIVERSITY
新コミュニケーションマーク

千葉大学の価値創造プロセス

CHIBA UNIVERSITY'S VALUE CREATION PROCESS

さらなる価値創造の基盤構築のための資本注入

資本・インプット

■ 財務資本

- 令和元年度経常収益722億円
- 学生納付金収益(83)
- 外部資金(60)
- その他(32)
- 運営費交付金収益(173)
- 附属病院収益(363)
- 機関補助金(11)
- 千葉大学SEEDS基金

■ 製造資本

- 4キャンパス 約96万㎡
(西千葉、亥鼻、松戸、柏の葉)
- 医学部附属病院 850病床数

■ 知的資本

- 15大学院
- 21共同利用教育研究施設
- 附属図書館 約133万冊
- 特色的な取組のノウハウ(先進科学プログラム、環境ISO等)
- 10学部
- 4附属学校
- 保有特許数 710件

■ 人的資本

- 役職員数 3,402人
- 学生数 13,832人
- 入学者数 3,548人

■ 社会・関係資本

- 510国際交流協定
- 17海外拠点

■ 自然資本

- 総エネルギー投入量 754,887GJ
- 水資源投入量 455.06千㎡



つねに、より高きものをめざして

VISION CHIBA UNIVERSITY 2015-2021

Global

- 国際社会で活躍できる次世代型人材の育成

Research

- 研究三峰(トリプルピークチャレンジ)の推進

Innovation

- 次世代を担うイノベーションの創生

Branding

- 千葉大学ブランディングの強化

Synergy

- 教職員による協働体制の強化

- 事業活動
- ガバナンス体制
- リスクマネジメント体制

社会的ニーズ

- 高度なグローバル人材の育成
- 革新的イノベーションの創出

外的環境(経済状況、技術の変化、社会課題、環境問題)

アウトプット

- 令和元年度経常費用 713億円
教育経費(29)、研究経費(36)、
診療経費(235)、受託研究費等(32)、
教育研究支援経費(13)、人件費(345)、
一般管理費(17)、その他(6)
- 当期総利益 9億円

→ 多様な財源による収益の獲得



アウトカム

- 学位授与者数 3,683人
- 外国人学生数 2,328人
- 日本人学生の留学・派遣数 831人
- 外国人研究員の受入れ数 691人
- 教職員の海外派遣者数 1,631人
- 入学志願者数 10,212人(国立大学1位)

→ 社会的ニーズに対応した 高度な人材育成



- 科研費等獲得件数 1,313件
 - 科研費等獲得額 2,626,833千円
 - Top10%ジャーナル論文数 726報[※]
 - 国際共著論文数 2,133報[※]
- ※ 過去5年分実績

→ 世界レベルでの研究推進



- 共同研究受入件数 418件
- 共同研究受入金額 839,160千円
- 受託研究受入件数 359件
- 受託研究受入金額 2,354,027千円
- 特許出願件数 161件
- 特許権実施等収入 67,913千円

→ 研究成果に基づく革新的・持続的 イノベーションの創出 企業の幅広いニーズに合わせた 共同研究の実施



- 新入院患者数 20,048人
- 地元企業との包括的連携協定等を締結
- 学生、金融機関、行政、地元事業者による環境保全活動

→ 地域への貢献



SDGsへの取組を推進

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際社会共通の目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標で構成されています。千葉大学では、SDGsの目標それぞれを達成するための取組を推進しています。



新型コロナウイルス感染症への対応

TAKE ACTION ON COVID-19

3億円規模の学生支援事業を実施

千葉大学は、2020年5月8日より、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴う収入の減少等により学生生活に支障を来している学生に向けて、無利子での現金10万円貸与や授業料の免除、メディア授業のためのモバイル型Wi-Fiの無償貸し出し、メディア授業実施支援にかかる学生アルバイトの雇用など、総額3億円規模の緊急学生支援事業を開始しました。これらの実施にあたっては、「千葉大学SEEDS基金」が重要な財源となっています。

千葉大学緊急学生支援パッケージ

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う千葉大学学生に向けた緊急支援策

全学生対象

学生生活に支障を来している方への無利子貸与

新型コロナウイルスの影響による家計急変やアルバイトの減少等により、学生生活に支障を来している方に、無利子貸与を実施

全学生対象 (一部大学院除く)

家計急変者への奨学金給付・貸与

千葉大学SEEDS基金による支援事業(奨学金給付)の実施

奨学金受給者対象

メディア授業対応環境整備

モバイル型Wi-Fiルーターの無償貸与
(独)日本学生支援機構給付型奨学金受給者に対し、メディア授業の全面実施に対応するための環境整備を支援

全学生対象

授業料免除制度

経済的理由によって給付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる授業料の納期前6月(入学者は入学前1年)以内において、学資負担者が死亡した場合、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合

全学生対象

メディア授業実施支援に係るアルバイト募集

メディア授業の実施において寄せられる千葉大学MoodleやOffice365の利用に係る問合せ等への対応の業務補助としてアルバイトを募集(アルバイト減少等への支援)

学生向けオンライン学習支援 ポータル・サイトを公開

2020年4月に、アカデミック・リンク・センター／附属図書館は、「メディア授業」を受講する千葉大学の学生向けに、授業の課題やレポートに取り組んだり、調べものを行ったりする際に役立つ各種情報源を集約したポータル・サイト (EYe!:エール) を公開しました。(https://alc.chiba-u.jp/eyr/online.html) 千葉大生であれば誰でも・どこからでも利用できる電子資料・オンライン相談・動画等へのリンクを提供し、授業前後の学習を支援します。

附属病院による メンタルヘルス支援活動

医学部附属病院のDPAT(災害派遣精神医療チーム)は、厚生労働省からの依頼で、横浜のダイヤモンドプリンセス号の支援に参加し、下船を待つ乗客の方や乗員・船医へのメンタルヘルス支援などを行いました。また、「以前とは違う」対応を誰もが余儀なくされているいま、先の見通せない不安やストレスを多くの方が抱えています。そこで、スタッフケアセンターと精神神経科のスタッフが「院内メンタルヘルス支援チーム」を立ち上げました。

3Dプリンターとハサミで フェイスシールドを作製

医学部附属病院は、フロンティア医工学センターの協力を得て、3Dプリンターとハサミで作製できる新型コロナウイルス感染症対策用の「フェイスシールド」を開発しました。新型コロナウイルス感染症の治療にあたっている多くの医療関係者に利用してもらうため、フロンティア医工学センターホームページ(https://www.cfme.chiba-u.jp/)で設計データおよび作製手順動画を公開しています。

感染防止と修学機会 の確保の両立

8月より、対面での授業を一部再開しました。学生には受講の際は間隔をあけて着席し、マスクの着用を義務付けています。教員もフェイスシールドを着用するなどの工夫をして講義を行っています。また、10月からは対面授業、オンデマンド型メディア授業、同時双方向型メディア授業を併用して実施しています。



机や椅子の使用を制限するためのステッカー

事業活動

BUSINESS ACTIVITIES





つねに、
より高きものを
めざして
Always Aim Higher



CHIBA
UNIVERSITY

千葉大学は
国際を
大切にします
Chiba University
respects
the environment.



CHIBA
UNIVERSITY



CHIBA
UNIVERSITY



01 Global

VISION
CHIBA UNIVERSITY
2015-2021| 全国初の研究科等連係課程
実施基本組織「総合国際学
位プログラム」の設置

千葉大学では、平成28年に創設した国際教養学部の取り組みを全学に波及させつつ、国際通用性を意識した教育プログラムの質保証に向けた取組や海外の大学等と連携した教育研究を進めるとともに、国際感覚を涵養するための多様な教育機会を提供し、国際的にも活躍できる人材育成を目指しています。そして、活発な国際交流を展開して、留学生を受け入れる国際的な高等教育の拠点、国際共同研究の拠点としての責任を果たしています。

また、これまで取り組んできた飛び入学や早期卒業等の学修制度は、優れた能力や資質を持つ若者が早期から研究の基礎となる学問を学ぶことができるため、未来の科学者育成の促進へとつながっています。

総合国際学位プログラムは、グローバルな諸課題を解決するために、社会課題と学術知を結合する高度な能力を有する人材を育成することを目的として、令和2年4月に、全国で初の研究科等連係課程基本実施組織として設置され、人文公共学府と融合理工学府との緊密な連係及び協力のもと、教育課程を実施します。本プログラムでは、既存の学問領域を超え、分野を横断して問題の解決を目指した知識生産を行うトランスディシプリナリーな教育・研究を展開し、自主的・自律的に研究計画を立案するセルフ・デザインド・メジャー（自己設計専攻）等の特徴としています。

■ 移民・難民研究

移民・難民研究は、これまで国際関係論や国際政治学が中心となって進められてきましたが、事柄を生活や労働、健康や文化の領域にまで拡張して考察するには、これらの既存の人文・社会科学を中心とする側面からの研究だけでは足りません。例えば、難民キャンプの建設運営には工学的知識が必要であり、そうした難民キャンプにおける子どもの教育には教育学や発達科学の知見が必要です。このように、移民・難民問題を統合的に把握するには、既存の学問分野を越境する「移民学」「難民学」のような新しい学問体系を構想することが必須であると考えます。

■ 科学技術社会論

科学技術社会論が主題とする課題は、ナノテク、エネルギー、温暖化、AI等と社会との関係、研究倫理・研究公正といった研究そのものの社会的基盤、サイエンスコミュニケーションのような社会とのインターフェイスの検討、科学技術政策やイノベーション論のような政策研究の領域に拡大しています。この中で、科学技術分野において人文知が果たす役割や、人文研究においてデータサイエンスが果たす役割（数理人文学 Digital Humanities）の検討という文理の枠を超えた領域を開拓してまいります。

■ 環境科学

地球規模の気候変動と温暖化にともない、人間や動植物を取り巻く環境はどのように変化しているのか。私たちに身近な地域のエコロジー、社会環境や都市環境の改善は生活の質をどう向上させるのか。資源の保全や生物多様性を踏まえた持続可能な開発（SDGs）を実現するためにはどうすればいいのか。環境科学は、従来の学問分野で言えば、環境法、環境経済、環境倫理、都市環境、環境工学、生物多様性論など複合的な領域から成り立っており、既存の学問分野を越境するだけでなく、環境科学という新しい総合的な学問の創出に取り組めます。

■ 文部科学省 「卓越大学院プログラム」

■ アジアユーラシア・グローバルリーダー 養成のための臨床人文学教育プログラム

本プログラムでは、大学院人文公共学府を中心として、国内外に構築された幅広いネットワークのもと、「臨床人文学」大学院教育を創生します。教育の焦点は第1に、多元的世界の中から未来社会に向けたあらゆる課題が生起している実験場＝「課題先進地域」としての『アジアユーラシア』であり、第2に、社会調査統計、多言語対応テキストマイニング（計量テキスト分析）及びGIS（地理情報システム）を3つの柱とした人文的データサイエンスの技法（Digital Humanities）です。アジアユーラシア地域の文化と感性の壁に分け入るミクロな観点・技法と、データサイエンスから俯瞰するマクロな観点・技法（Digital Humanities）とを、二つながら統合的に修得することにより、変化してやまない世界に対処する力を備え、これからのダイバーシティ環境をリードしていく人材の養成を目指しています。

■ 革新医療創生CHIBA卓越大学院

本プログラムでは、100年以上の医学教育の伝統と、医学と薬学を融合させた日本初の大学院医学薬学府が中心となり、理化学研究所とカリフォルニア大学サンディエゴ校（UC San Diego）などの世界トップ研究機関や多数の企業と連携し、新しい大学院教育「クラスター制CHIBA教育システム」を実施します。様々な分野のトップの大学院生が、所属機関や部局等の既成の枠を越えて組織された6つの教育研究クラスターの複数クラスターで学修し、主体的に自ら切磋琢磨することで、学生の主体性を伸ばし、俯瞰力と多角的な視点、柔軟な思考力、イノベーションマインド、失敗を恐れないスピリッツとレジリエンスを涵養し、新たな「医学の知」の創出者、革新的な治療薬や治療法を開発するイノベーター、医療格差などの社会の歪みを正すリーダーを育成します。

■ 千葉大学グローバル 人材育成“ENGINE”



“ENGINE”では、“学部・大学院生の全員留学”を目指して、留学プログラムや留学支援体制を強化するとともに、外国人教員の増員等による教育改革や留学中でも科目履修が継続出来る教育環境整備等を行います。具体的には、次の取組を行います。

■ 海外留学環境の充実

国際的な感覚を身に付けることを主な目的とし、学部学生・大学院生ともに、留学を必修化します。留学目的や語学力に合わせた多様なプログラムを全学及び部局で設置するとともに、留学支援職員を配置し、プログラム実施を支援します。

■ グローバル教育の充実

世界の共通語である英語について、多角的に学べる環境を提供します。なお、リーディングとライティングは、論文レベルの授業を開講し、リスニングとスピーキングは、国際日本学の中で行われているイングリッシュ・コミュニケーションにおいて、実践型教育を実施します。また、外国人教員を新たに採用し、部局の特性に合わせた英語教育を行います。

■ スマートラーニングの実践

eラーニングを活用した教育システムである「スマートラーニング」により、いつでもどこでも学べる環境の整備を行います。これにより、留学時にも国内で行っている授業を受講することが可能となります。また、これまで授業時間内に行っていた知識教授型の授業を反転学修により実施することで、課題解決型授業へシフトすることが可能となります。

スーパーグローバル 大学創成支援事業 グローバル千葉大学の新生 Rising Chiba University



千葉大学は、平成26年度文部科学省「スーパーグローバル大学等事業『スーパーグローバル大学創成支援』」のタイプB(グローバル化牽引型)に採択されました。本事業は、我が国の高等教育の国際競争力の向上のため、大学改革により徹底した国際化を進める世界レベルの教育研究

を行うトップ大学や、国際化を牽引するグローバル大学に対して文部科学省が支援を行うものです。スーパーグローバル大学創成支援の採択を受け、グローバル化教育のためには「人間力のある人材の育成」が必須であると再認識し、日本を理解し日本をアピールできるグローバルな人材を育成するための様々な取組を実施していきます。

■ 平成28年4月から、全学的にターム制(6ターム制)を導入

ターム制(6ターム制)を導入することにより、ギャップタームを創出し、留学、インターンシップやボランティア等、学生の多様な社会体験の機会を確保しています。

■ 新たな学修支援専門職“SULA”でテーラーメイド教育を実現

学修支援や関連する専門的業務を行う新しい専門職として“SULA(Super University Learning Administrator)”を創設しました。学生の学習計画・支援・実施・フォローを行い、個々のニーズに即したテーラーメイドな学修支援を行うことで、実質的な学修時間の確保に繋げていきます。

■ ショート・プログラム(サマー・ウィンタープログラム)で留学生数を拡大

海外からの短期留学生数を拡充するため、ショート・プログラムを実施しています。“Cool Japan”等、各学部・大学院による多彩で魅力的なコンテンツを開発し、多様なプログラムを提供していきます。

22年目の先進科学 プログラム(飛び入学)

若い才能の発掘と科学者育成を促進する千葉大学の先進科学プログラム(飛び入学)は1998年に始まり今年で22年目を迎えました。高校2年修了後に大学に入学(春入学)または高校3年9月から入学(秋入学)し、早くから科学分野の専門的な勉強を進めることで、将来、独創性の豊かな科学者・研究者になり、世界に羽ばたく若者を育てています。

1998年に飛び入学生3名を受け入れて以来分野を拡大し続け、現在では6分野14クラスで実施し、プログラムでは1年次から独自の授業を用意しており、選抜された学生は学部学科でのカリキュラムに加えてこれらの授業を履修します。卒業生たちは国内外の大学院で学び、研究機関や民間企業で活躍しています。「飛び入学」や「飛び級」は世界的に見ても各国で採用されており、若い才能を発掘し、科学者の育成において実績を残しています。

生物学関連分野

物理学関連分野

植物生命科学関連分野

化学関連分野

工学関連分野

人間科学関連分野

大学の世界展開力 強化事業

大学の世界展開力強化事業は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行うアジア・米国・欧州の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的として、文部科学省において平成23年度から開始された事業です。

- COILを使用した日米ユニークプログラム (JUSU)



千葉大学と米国4大学の特色や強みを活かしたユニークな分野で、オンラインを活用しながら、アクティブラーニング型講義を展開します。日米の学生が各専門分野を教え合う双方向協働教育を行うことで、自分の専門にとらわれない学びを実現できる人材を育成します。

事業支援期間：平成30年～令和4年度 ※COIL：オンライン国際協働学習

- 極東ロシアの未来農業に貢献できる領域横断型人材育成プログラム (FARM)



未来農業は、生産過程に加えて、流通・消費などを含めた「次世代6次産業」を体現するものであるため、極東ロシアにおいて食料生産から流通・販売ビジネスまで含めた未来農業を理解でき、日露の共同事業に貢献できる人材を育成します。

事業支援期間：平成29年～令和3年度

- 植物環境イノベーションプログラム (CAPE)



植物環境に関わる産業は、第6次産業に第4次産業も加わり進化することが予測できるため、中国・韓国の3大学と連携し、園芸学（農学）と工学の両方の領域に長けた、植物環境のイノベーションを企画・提案・実施できる人材を育成します。

事業支援期間：平成28年～令和2年度

- ポスト・アーバン・リビング・イノベーション・プログラム (PURI)



未来の快適な都市を、メキシコやパナマの学生と創造するプログラムです。本学の世界展開力強化事業で初の全学型プログラムです。文系・理系の人材が協働し、企業と同じプロセスでプログラムを実施します。現在8つのプロジェクトが行われています。また大学発のコンサルティング会社の起業を目指します。

事業支援期間：平成27年～令和元年度

- ツイン型学生派遣プログラム (TWINCLE)



教育学（部）研究科と他学（部）研究科の学生がペアを組んでASEAN諸国を訪問し、現地の中小高等学校で先生となり、本学で行われる先端科学研究や日本文化についての授業・実験をすることにより、グローバルマインドを持った人材を育成します。ASEAN諸国の懸け橋となる人材育成を行う事業としてS評価を受け、現在は大学独自の全学型プログラムとして実施しています。

事業支援期間：平成24年度～平成28年度

- 大陸間デザイン教育プログラム (CODE)



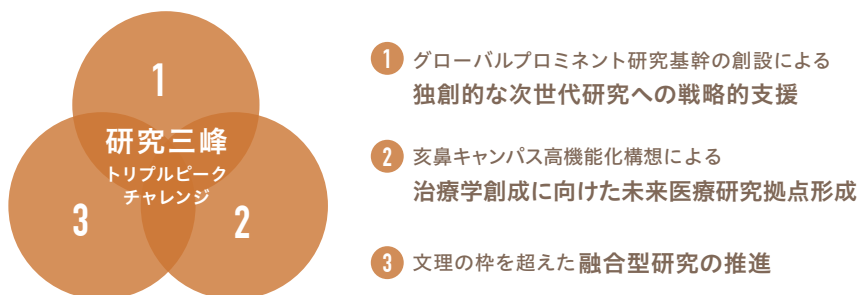
学部3.5年＋修士2.5年の今までにない新たな6年間の学修年限の中で、1年間米国＋欧州に留学してデザインを学びます。各国の特徴あるデザイン教育を受け、将来の産業を創生するグローバルなデザイナーを育成します。当事業は最終S評価を受け、現在はデザイン・コースの独自プログラムとして実施

しています。事業支援期間：平成23年～平成27年度

02 Research

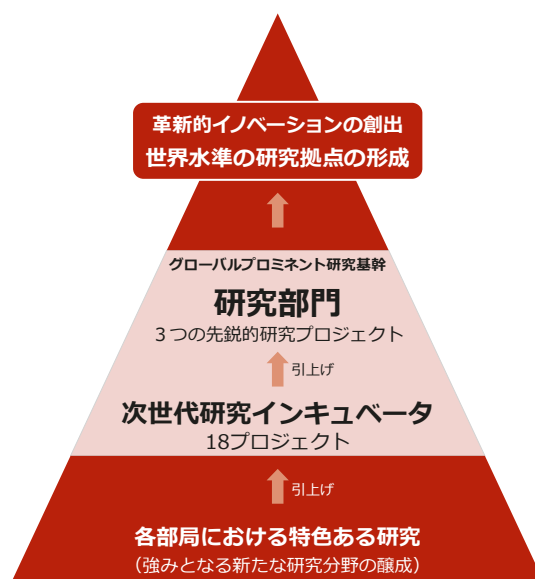
VISION
CHIBA UNIVERSITY
2015-2021

千葉大学では、全10学部を生命科学系、理工学系、人文社会科学系の三つの群に分け、それぞれの群で世界レベルの研究や人材育成を追求する「研究三峰」(トリプルピークチャレンジ)を推進しています。また2016年には、トリプルピークチャレンジのビジョンを実現するための組織基盤としてグローバルプロミネント研究基幹(GP研究基幹)を創設しました。GP研究基幹は、千葉大学における独創的な次世代研究を支援・牽引するとともに、文理の枠を超えた融合型研究の推進を促す役割を果たしています。



1. グローバルプロミネント 研究基幹の創設による 独創的な次世代研究への 戦略的支援

千葉大学では、世界最高水準の研究を継続的に創出していくための組織・システムとして2016年にグローバルプロミネント研究基幹(GP研究基幹)を創設しました。研究IR(Institutional Research)などによって明らかになった千葉大学が強みを持つ研究領域に大学の研究資源(研究人材、機器、研究資金、研究スペース、時間)を重点的に投入し、世界水準の研究拠点の構築や革新的イノベーションの創出を支援しています。世界レベルの研究とそれに基づく国際的卓越研究拠点の形成をめざす「研究部門」と、千葉大学の次なる重点推進分野を育成する「次世代研究インキュベータ」という2階層の研究推進部門を擁し、それぞれに重点的に支援を行う研究プロジェクトを選定・配置しています。



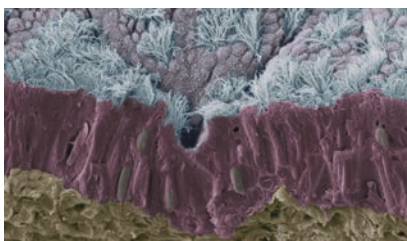
戦略的重点研究強化 プログラム研究部門



高エネルギーハドロン宇宙
国際研究拠点形成

南極点の氷のなかで検出されるニュートリノの観測と、理論シミュレーション研究の連携により、超高エネルギー宇宙線放射源の特定と粒子加速メカニズムの解明をめざしています。大学院理学研究院の吉田滋教授がセンター長を務める千葉大学のハドロン宇宙国際研究センター（ICEHAP）は、南極点の深氷河を舞台に進められているIceCube国際共同実験に

日本から唯一参加し、オリジナル検出器を開発、製作しています。高エネルギー宇宙線とニュートリノの起源を探索し、宇宙誕生の謎の解明に取り組んでいます。IceCubeによる高エネルギーニュートリノの放射源天体の特定は、科学誌『Science』の2018年10大ニュースのひとつに選ばれました。



国際粘膜免疫・アレルギー
治療学研究拠点形成事業

消化管や気道、肺などの外界との接触面に形成される粘膜バリアは、強力な免疫システムを備えることで、病原体の体内への侵入を防御しています。この粘膜バリアの働きや機能を解明するために、千葉大学では2016年に「国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究センター」を創設し、カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）と共同で研究プロジェクトを推進しています。

本プロジェクトでは、粘膜バリアにおける免疫応答の基礎研究をはじめ、疾患治療に向けた応用研究、感染症やアレルギー性疾患などを予防する次世代型粘膜ワクチンの創出に取り組み、粘膜免疫の理論・技術を基盤に感染症等の治療法を開発する新たな学術領域の創成をめざしています。



キラルな光で拓く革新的
物質科学

人間の右手、左手のように、同じかたちをしていても互いの鏡像が一致しない（重ね合わせられない）ことをキラリティーといいます。光にも波面の右回りあるいは左回りの螺旋性によるキラリティーがあります。この光をキラルな光と言います。われわれは、キラルな光を物質に照射すると、物質がナノスケールのキラルな構造に変形することを世界で初めて発見しまし

た。ナノスケールのキラルな構造は様々な先端物質科学を支える基盤となります。例えば、キラリティー選択性の高いマイクロ化学チップ、キラル選択性の高い高感度バイオセンサーなど付加価値の高いデバイス開発に展開できます。また、キラルな光で結晶化などの現象で顕在化するキラリティーを直接制御できる可能性もあります。

千葉大学では、世界でも類を見ないキラルな光で物質をデザインするキラルフोटニクス学術創成を目指しています。

グローバルプロミネント研究一覧

分類	概要	研究プロジェクト名	推進責任者(所属、氏名)
研究部門	粘膜バリアの機能解明による次世代ワクチンの創出	国際粘膜免疫・アレルギー治療学研究拠点形成事業	医学研究院 中山 俊憲 教授
	キララな光を用いたナノスケールの化学反応器や撮像装置の開発	キララな光で拓く革新的物質科学	工学研究院 尾松 孝茂 教授
	南極点のニュートリノ観測で宇宙創生の謎に迫る	世界最高感度のニュートリノ観測と数値シミュレーションで切り拓く高エネルギーハドロン宇宙国際研究拠点形成	理学研究院 吉田 滋 教授
戦略的重点研究強化プログラム	植物がつくる化学成分から植物機能の分子的解明と応用をめざす	ファイトケミカル植物分子科学	植物分子科学研究センター 齊藤 和季 特任教授
	災害地域の環境把握へ、宇宙から地球の地盤をモニタリング	先端マイクロ波リモートセンシング拠点形成	環境リモートセンシング研究センター Josaphat Tetuko Sri Sumantyo 教授
	モダリティ(診断装置)を用いて病気による体内の変化を解明	マルチモーダル計測医工学	フロンティア医工学センター 羽石 秀昭 教授
	ソフト分子からなる触媒で未来型のスマート材料を創造	先導的ソフト分子の活性化と機能創製	理学研究院 荒井 孝義 教授
	エピゲノム異常を突破口に癌の解明と新たな創薬をめざす	癌の本態解明および臨床応用へ向けた小分子開発を行う癌エピゲノム拠点	医学研究院 金田 篤志 教授
	グローバルの新たな秩序=公正を基軸に未来社会を展望	学際的社会科学による未来型公正研究	社会科学研究院 水島 治郎 教授
	分野横断型のネットワークで希少・難治性疾患の治療法を開発	希少・難治性疾患に対する革新的治療創生研究	医学研究院 本橋 新一郎 教授
	世界初のリアルタイムホログラフィ3D表示システムの実現へ	次世代3次元映像計測技術の創成と応用	工学研究院 下馬場 朋禄 教授
	宿主と微生物の相互作用を解明し、新たな治療法の開発へ	“超個体”の統合的理解に基づく次世代型「感染制御学」研究推進拠点	真菌医学研究センター 米山 光俊 教授
	糖質科学と医学を結びつけ、新たな免疫療法を構築	千葉大学糖鎖創薬研究拠点の創薬シーズ探索への展開	薬学研究院 川島 博人 教授
次世代研究インキュベータ	情動モニタリングによる質感評価と、質感イメージングの産業応用	質感・情動イメージングの創成	工学研究院 津村 徳道 准教授
	ナノ技術を駆使して、癌等を治療する薬物送達システムを開発	千葉大発ナノDDSによるRNA創薬プラットフォームの実装	薬学研究院 秋田 英万 教授
	限られた情報の精度を高める革新的な統計技法を創出	小地域推定の統計手法開発と貧困・公衆衛生・災害などへの応用	社会科学研究院 小林 弦矢 准教授
	超小型飛行機の制御を昆虫の羽ばたきに学ぶ	生物規範工学:昆虫が拓くビッグ・イノベーション	工学研究院 劉 浩 教授
	大学の文理6部局を横断する心理学精神科学の研究拠点を構築	心理学・精神科学の文理横断橋渡し研究拠点	子どものこころの発達教育センター 清水 栄司 教授
	骨伝導の知見と技術を、コミュニケーション促進機器の開発に活かす	先進的骨伝導技術を基盤としたコミュニケーション促進機器の研究開発	フロンティア医工学センター 中川 誠司 教授
	リンパ浮腫ケアのためのセルフアセスメントデバイスを開発	IoTリンパ浮腫モニタの実用化による早期診断・治療と病態の解明	工学研究院 武居 昌宏 教授
	新たな学問領域「メタロミクス」(生体金属支援機能科学)の確立へ	生命金属の統合的理解と革新的利用の研究拠点形成	薬学研究院 小椋 康光 教授
	国籍・民族が異なる人びとがともに生きる社会をめざして	日本の多文化共生社会構築へ向けた移民・難民研究	社会科学研究院 小川 玲子 教授
	リーディング研究育成プログラム	糖質科学と医学を結びつけ、新たな免疫療法を構築	千葉大学糖鎖創薬研究拠点の創薬シーズ探索への展開
情動モニタリングによる質感評価と、質感イメージングの産業応用		質感・情動イメージングの創成	工学研究院 津村 徳道 准教授
ナノ技術を駆使して、癌等を治療する薬物送達システムを開発		千葉大発ナノDDSによるRNA創薬プラットフォームの実装	薬学研究院 秋田 英万 教授
限られた情報の精度を高める革新的な統計技法を創出		小地域推定の統計手法開発と貧困・公衆衛生・災害などへの応用	社会科学研究院 小林 弦矢 准教授
超小型飛行機の制御を昆虫の羽ばたきに学ぶ		生物規範工学:昆虫が拓くビッグ・イノベーション	工学研究院 劉 浩 教授
大学の文理6部局を横断する心理学精神科学の研究拠点を構築		心理学・精神科学の文理横断橋渡し研究拠点	子どものこころの発達教育センター 清水 栄司 教授
骨伝導の知見と技術を、コミュニケーション促進機器の開発に活かす		先進的骨伝導技術を基盤としたコミュニケーション促進機器の研究開発	フロンティア医工学センター 中川 誠司 教授
リンパ浮腫ケアのためのセルフアセスメントデバイスを開発		IoTリンパ浮腫モニタの実用化による早期診断・治療と病態の解明	工学研究院 武居 昌宏 教授
新たな学問領域「メタロミクス」(生体金属支援機能科学)の確立へ		生命金属の統合的理解と革新的利用の研究拠点形成	薬学研究院 小椋 康光 教授
国籍・民族が異なる人びとがともに生きる社会をめざして		日本の多文化共生社会構築へ向けた移民・難民研究	社会科学研究院 小川 玲子 教授

主な受賞

年度	受賞者名	研究テーマ・著書等	賞名	賞の内容
平成29年度	石原 安野	ハドロン宇宙科学	猿橋賞	自然科学分野で顕著な研究業績を挙げた女性研究者に贈られる賞
平成29年度	水島 治郎	『ポピュリズムとは何か』	石橋湛山賞	石橋湛山の思想の継承・発展に最も貢献したと考えられる著作に贈られる賞
平成30年秋	齊藤 和季	ファイトケミカル植物分子科学	紫綬褒章	科学技術分野等において優れた業績を挙げた者に授与される褒章
令和元年度	吉田 滋 石原 安野	『超高エネルギー宇宙ニュートリノの発見』	仁科記念賞	物理学の学術賞であり、独創的で優秀な研究成果を挙げた個人あるいはグループに授与される賞
令和2年度	金田 篤志	『ウイルス感染をもたらす固有のエピゲノム異常と消化管腫瘍サブタイプの同定』	田原栄一賞	消化器癌発生研究の一層の振興を図るため、優れたがん研究者に授与される賞
令和2年度	下馬場 朋祿	『コンピュータホログラフィの原理に基づく3次元情報処理』	日本学術振興会賞	日本学術振興会が運営する、若手科学者を対象とした賞

2. 亥鼻キャンパス高機能化構想による治療学創成に向けた未来医療研究拠点形成



国立大学唯一の医療系3学部（医学・薬学・看護学）と附属病院が結集

千葉大学は、医学、薬学、看護学の医療系3学部と附属病院が1つのキャンパスに結集した国立大学です。3学部と附属病院は千葉市中央区の亥鼻キャンパスに立地し、次世代の高度かつ多様な医療関連ニーズに応える医療人（医師、薬剤師、看護師）の育成と各種医療サービスの提供、医薬領域における先端的イノベーション創出など、幅広い活動を展開しています。

2015年に公表した「千葉大学ビジョン」では、「トリプルピークチャレンジ」の一環として、亥鼻キャンパスの高機能化を通じて、未来医療教育研究拠点の形成に取り組むことを戦略テーマのひとつに掲げました。また、治療の論理的背景を明らかにし、その知見に基づいた新規治療法の開発を系統的に研究・実践する「治療学」の創成に注力し、新たな医療技術の開発に貢献します。

2021年4月には、治療学の創成と発展を牽引する拠点として、亥鼻キャンパス内に「千葉大学医学系総合研究棟（治療学研究棟）」が完成する予定です。千葉大学は今後も、亥鼻キャンパスにおける教育研究環境基盤のさらなる高度化を通じて、生命科学分野及び医療分野における世界レベルの研究と卓越した医療人の輩出を追求していきます。

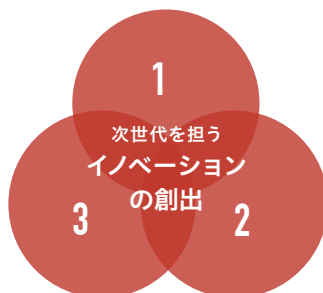
3. 文理の枠を超えた融合型研究の推進

千葉大学は、生命科学系、理工学系、人文社会科学系の10の学部と15の大学院で構成された総合大学として発展を続けています。他方、日本社会では政治・経済の急激なグローバル化や情報のネットワーク化を背景に、社会課題の複雑化、多様化が顕著になっています。社会課題に対するソリューションを追求する大学においても、幅広い領域をカバーする知の深化と、学際的な知の融合が求められるようになってきました。千葉大学ではこうした社会的要請に応えるため、2016年に国際教養学部を創設するなど、文理の枠を超えた融合的教育・研究の推進に注力。学際的な新領域の開拓に努めると同時に、社会との連携を積極的に推進し、従来の学問の枠組みにとらわれない、革新的かつ国際的な研究拠点の形成をめざしています。

03 Innovation

VISION
CHIBA UNIVERSITY
2015-2021

千葉大学では、イノベーションの創出に向けた産業連携研究を推進するとともに、研究成果の社会実装を見据えた知的財産の確保と活用、イノベーション創出人材の育成など、多彩な取り組みに注力しています。2020年4月には、産学官連携の拠点となる学術研究・イノベーション推進機構(Academic Research & Innovation Management Organization:IMO)を設置しました。IMOは研究推進と産学官連携に必要な諸機能を集約し、千葉大学の研究推進基盤やベンチャー創出支援のための体制を強化することで、社会課題の解決に貢献するイノベーションの創出を追求しています。



- ① イノベーションの創出に向けた産業連携研究の推進・強化
- ② 研究成果の社会実装へ向けた知的財産の確保と活用
- ③ イノベーション創出人材の育成と組織改革

I 事業環境と施策

千葉大学では、国立大学法人の運営費交付金をはじめとする公的資金が縮減される中、産学連携活動の推進による外部資金の一層の獲得に努めてきました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、企業との共同研究費や寄附金がこの先減少することも懸念されます。このような環境のもと、千葉大学は産学連携活動の拡大・深化のための5つの施策の推進に取り組んでいます。

①イノベーション・エコシステムの創出

産学連携活動によって得られた対価の一部を基盤研究へ還流させ、基盤研究から応用研究への流れを構築し、その取り組みが新たな資金を呼び込む「イノベーション・エコシステム」を実現する。

②適正な共同研究等の経費設定と「千葉大学研究支援基金」の創設

「知」に対する価値づけを行い、適正な共同研究経費を設定するとともに、多くの皆様のご理解ご協力のもと基盤研究を支援するための「千葉大学研究支援基金」を創設し、運用を行う。

③「組織」対「組織」の産学連携の推進

企業との間でビジョンを共有し、学内の広範な学術領域を連携させて社会課題の解決に取り組む新たな「組織」対「組織」の産学連携の推進をめざす。

④大学発ベンチャーの創出

大学発ベンチャー企業の創出を支援し、イノベーションやベンチャー企業が自発的・連続的に創出される「ベンチャーエコシステム」の構築に寄与する。

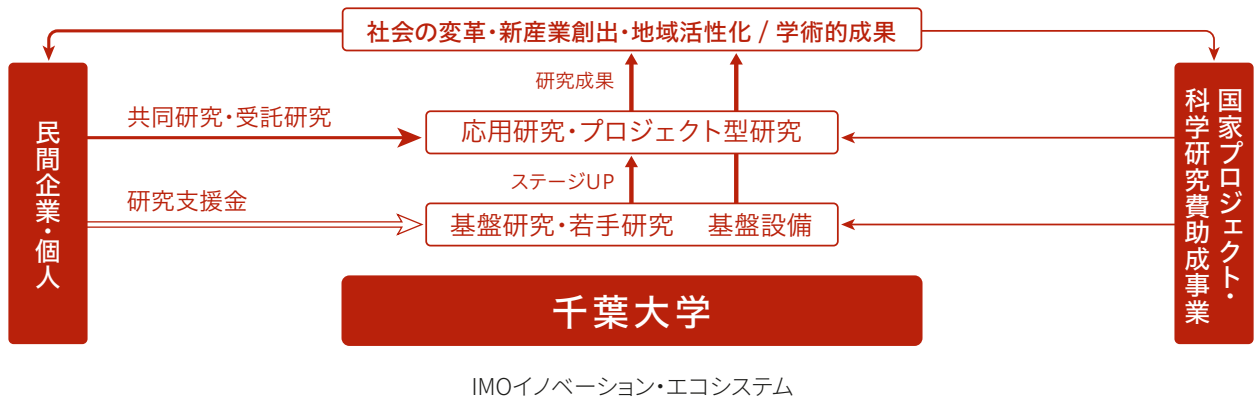
⑤利益相反・安全保障貿易管理等のリスクマネジメント機能の強化

産学連携活動に関して生じる利益相反や安全保障輸出管理等のリスクマネジメントの一層の強化を図る。

1. イノベーションの創出に向けた産業連携研究の推進・強化

■ イノベーション・エコシステムの創出をめざして

千葉大学は、高度な研究活動を通じて得られた多様な学術分野における研究成果を産業や社会へ還元し、日本と世界の社会課題の解決に貢献することを目指しています。優れた研究成果を生み出す背景には、数多くの基盤研究の積み重ねが必要となります。現在、IMOでは、共同研究・受託研究の経費の一部を基盤研究へ還流させ、基盤研究から応用研究、そしてイノベーションの創出へと結実させる循環的な仕組み「イノベーション・エコシステム」を構築・推進しています。基盤研究や応用研究による価値創造の対価として得られた財源の一部は、新たなイノベーションを生み出すための研究シーズの創出に振り向けられます。今後も「イノベーション・エコシステム」の確立に力を注いでいきます。

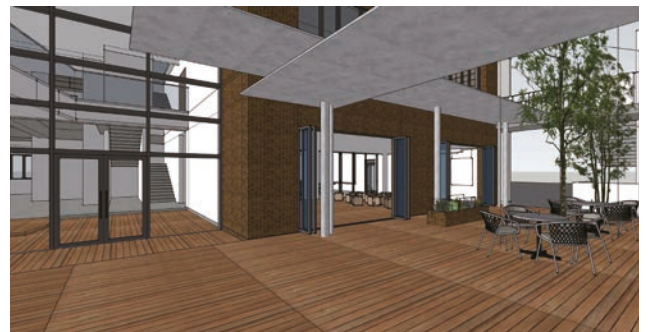


■ イノベーション創出のためのスペースの提供

新たな価値創造に取り組むため、西千葉キャンパスに、「オープン・イノベーション・スペース」と「プロジェクト推進スペース」の設置を進めています。2021年3月に完成予定のこれらのスペースを、ベンチャー支援や組織を超えた連携によるオープン・イノベーション、研究推進・交流の拠点として活用していきます。



「オープン・イノベーション・スペース」(イメージ)



「プロジェクト推進スペース」(イメージ)

2. 研究成果の社会実装へ向けた知的財産の確保と活用

大学が創出した技術シーズをイノベーションに繋げるためには、特許等の知的財産権を適切に取得・保持し、これらを有効に活用して社会実装や新たな共同研究へ展開する「知財イノベーション・エコシステム」の構築が欠かせません。千葉大学では2006年度の「産学連携・知的財産機構」の設置を皮切りに数次の組織改編を重ね、2020年4月には、新設したIMOの中に「知財・技術移転戦略部門」を設けて、知財の確保と活用ならびに知財専門人材の育成に取り組んでいます。

千葉大学の特許等保有件数は2014年度以降、着実に増加しており、2018年度末には700件を超えました。今後は、特許取得の経験が少ない若手研究者からの出願を促しつつ、権利維持の必要性を適切に判断し、特許権等の適正規模の保有をめざします。一方、特許権実施等収入は2019年度に過去最高を記録しました。しかし保有特許等に占める実施契約件数の割合は約2割と低水準に留まっていることから、引き続き千葉大学が保有している特許の社会実装を推進していく方針です。また知財・技術移転を担当する内部人材を育成・拡充することに加え、大学の技術移転を専門とする外部機関とも連携し、企業へのマーケティング強化を図ります。

3. イノベーション創出人材の育成と組織改革

現在わが国では、国づくりの基本として、持続可能なイノベーションの創出力強化と、それを支える人材の育成が強く求められています。千葉大学はこうした社会的要請に応えるため、研究分野の融合や、研究シーズと社会ニーズのマッチングに力を注ぐと同時に、産学官連携でイノベーションを創出するための教育研究体制の整備・拡充に努めています。大学における研究分野の融合については、千葉大学グローバルプロミネント研究基幹を推進拠点に、部局や世代を超えた研究人材の協働や海外研究者との交流を促進しつつ、基盤研究から社会実装を見据えた応用研究まで幅広い分野で研究活動を展開しています。

また、千葉大学ベンチャービジネスラボラトリー (VBL) では、ベンチャービジネスの萌芽となる独創的な研究開発を推進し、新たな産業分野の創出をめざしています。また、VBLでは、学生のベンチャーマインドの育成のため「ベンチャービジネス論」をはじめとした多彩な講義を展開しているほか、独創性あるビジネスアイデアに対して助成を行う「なのはなコンペ」を実施しています。

成果(2019年度実績)

※対前年度実績

共同研究受入件数 

418件 5件減(-1%)

共同研究受入金額 


839,160千円 31,675千円増(+4%)

受託研究受入件数 


359件 15件増(+4%)

受託研究受入金額 


2,354,027千円 157,639千円増(+7%)

特許出願件数 

161件 13件増(+9%)

保有特許等件数 

749件 39件増(+6%)

特許権実施等収入 

67,913千円 40,754千円増(+150%)

Case Study



イノベーションの創出に向けたケーススタディを紹介します。

暮らしているだけで健康になる空間・地域の実現をめざして

2018年9月、千葉大学と民間企業6社が協働する産学共同プロジェクトが、科学技術振興機構 (JST) の事業「産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA)」に採択されました。OPERAは、大学等が産業界と協調して新たな基盤産業育成の核となる革新的技術の創造に取り組み、基礎研究等における産学パートナーシップの拡大とわが国におけるオープン・イノベーションの加速・浸透を図るものです。千葉大学などが共創コンソーシアムを通じて推進するプログラム「ゼロ次予防戦略によるWell Active Communityのデザイン・評価技術の創出と社会実装」は、社会環境の整備による疾病予防 (ゼロ次予防) 戦略に基づき、暮らしているだけで健康かつ活動的になる社会 (Well Active Community: WACo) の創出を追求します。エビデンスベースドな空間デザイン・設計手法、地域・空間連動型ウェルネスプログラム、地域環境・デザインのシミュレータからなるキーテクノロジーを確立、社会実装することでWACoの実現をめざしています。2020年4月より本格実施フェーズを迎え、民間企業18社に拡大して順調に研究開発に取り組んでいます。



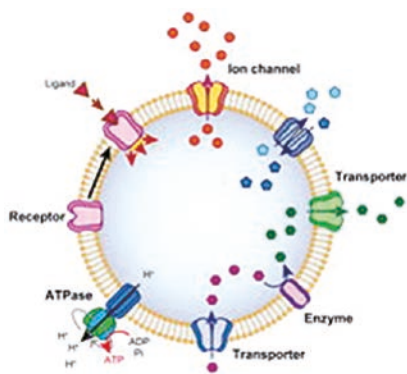
次世代ドローンの開発を通じて、アーバンエアモビリティの進化を牽引する

2010年代の半ばより「空の産業革命」という言葉が企業社会やマスコミの世界で喧伝されるようになってきました。空の産業革命とは、物流、医療、農業、警備など、様々な産業用途で小型無人航空機 (ドローン) を活用し、人々の暮らしを大きく変革していくことをいいます。千葉大学では、ドローンをはじめとした次世代型UAM (アーバンエアモビリティ) の飛行システム技術を研究・開発する新組織として、2019年に千葉大学大学院工学研究院附属インテリジェント飛行センター (CAIV) を設立しました。CAIVでは、複雑な自然環境の中を巧みに飛翔して生存してきた鳥類や昆虫などの「飛翔生物」に、次世代ドローンに求められるロバスト性 (落ちない性質) や知能性 (ぶつからない性質) を学び、「空の産業革命」を牽引する飛行システム技術の開発と、関連分野の若手人材育成に力を注いでいます。そして高揚期に入ったドローン産業のさらなる発展を主導し、空飛ぶクルマの実用化に代表される「空の移動革命」を牽引するとともに、未来社会におけるエアモビリティ産業の確立と隆盛に貢献していきたいと考えています。

最新テクノロジーを駆使して、膜タンパク質の構造解析に挑む

膜タンパク質とは、動物、植物、微生物の細胞や細胞内小器官の生体膜に付着しているタンパク質の総称で、全タンパク質の約30%を占めています。市販の医薬品の50%以上は膜タンパク質に作用することが判明しているとおり、膜タンパク質は創薬の重要なターゲットとなっていますが、膜タンパク質の構造解析はきわめて難しく、現在でも700種類程度の構造が得られたにすぎません。膜タンパク質の立体構造の体系的かつ網羅的な決定が、食品、医薬、農業など、多くの業界から強く期待されています。

千葉大学では、こうした要請に応えるため、アミノ酸をどう改変すれば熱安定化できるかを統計熱力学計算に基づいて予測するエントロピー基盤法など、様々な先進技術を開発し、膜タンパク質の構造解析に取り組んでいます。また千葉大学が幹事機関を務める「膜タンパク質研究」産学官共創コンソーシアム構想では、食品、医薬等のメーカーやバイオ系ベンチャー、高エネルギー加速器研究機構などの公的機関と協働して、膜タンパク質のキーテクノロジーの共有化と、産学官の共創を推進するオープン・イノベーション拠点の構築をめざしています。



04 Branding

VISION
CHIBA UNIVERSITY
2015-2021

千葉大学墨田キャンパスの 開設について

千葉大学では、大学における教育研究活動等の公開性、透明性を確保し、社会に対する必要な説明責任を果たすとともに、国内外から信頼される千葉大学ブランドの確立を目指しています。

そのため、本学のブランディングのための体制を整備し、教職員の広報に対する意識を醸成するとともに多様な手法を活用して効果的な広報活動を行っています。

2021年4月、東京都墨田区に新たなサテライトキャンパスを開設します。

1921年に設置された東京高等工藝学校を礎とする千葉大学工学部は、技術と人間生活の接点を担うデザイナーやアーキテクト、イメージングの分野で多くの優秀な人材を輩出してきました。

100年の歴史を誇る千葉大学のデザイン教育・研究を工学全般から文理横断へと分野を越えて発展させるため、ものづくりのまちである墨田区に、建物全体が実証実験空間となり生活の全てをシミュレートできる最先端のキャンパスの整備を進めています。



本キャンパスには、全学利用の教育研究施設「dri(デザイン・リサーチ・インスティテュート) (仮称)」を新たに設置し、産学官連携による分野横断的デザイン教育や生活密着型企業と連携した多様で実践的な研究、地域課題の解決に向けた取組等の多様な活動を展開していきます。

アカデミック・リンク松戸 図書館オープンと緑地整備

「アカデミック・リンク松戸」は、「フィールドとコンテンツと学習の近接」によって、知識基盤社会を生き抜く「感性に優れた考える人材の創造」を目指して計画され、2019年7月に竣工しました。建物は延べ床面積2,675㎡の4階建てで、附属図書館松戸分館(2・3階)、松戸地区事務課事務室、大学院園芸学研究科・園芸学部実験室の3つの機能を兼ね備えています。



「アカデミック・リンク松戸」の中核をなす附属図書館松戸分館は2019年11月にリニューアルオープンし、本学が実践している図書館機能をベースにした新しい学習環境のコンセプトを実現しています。2020年秋には、建物の前面に園芸学部特有の環境にふさわしい緑地「緑のテラス」が整備され、「アカデミック・リンク松戸」が完成します。

令和2年度入学者選抜試験 (学部) 志願者数国立大学1位

多様な志願者の確保に向け、「千葉大学広報基本方針」に基づき、通常の入試広報に加えて学長が千葉県下の公立高等学校へ出向き高校生に向けて大学教育に関する講演を行うなど、千葉大学のブランド力の確立及び知名度の向上に向けた一体的な広報活動を推進しています。

また、スーパーサイエンスハイスクールによる授業や課外活動における探究学習活動の成果を発表する機会の提供を通じ、科学技術分野の教育改革を展開することを目的として、高校生理科研究発表会を開催しています。

これらの成果の一つとして、令和2年度一般入試における志願者数が、5年連続で国立大学1位となりました。

入学年度	28年度	29年度	30年度	31年度	2年度
1位	千葉大	千葉大	千葉大	千葉大	千葉大
2位	大阪大	神戸大	神戸大	北海道大	北海道大
3位	北海道大	北海道大	北海道大	神戸大	神戸大
4位	神戸大	東京大	東京大	東京大	東京大
5位	東京大	横浜国立大	富山大	富山大	京都大

(出典:文部科学省「令和2年度国公立大学入学者選抜大学別確定志願者数」を基本にて作成)

新しい生活様式に即した 広報活動の実践

新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、広報活動も新しい生活様式に合わせた方法へと変更を余儀なくされました。対面での活動をできる限り避けるべく、ウェブサイトや大学公式 SNS を駆使して、最新のトピックスを国内外へ積極的に発信しています。

これまで対面で実施していたイベント、説明会等は、感染防止の観点からインターネットを活用した形態へと変化し、例えば、職員が全国の高等学校へ個別に訪問する大学説明会や各学部で開催するオープンキャンパスに代わり、ウェブ会議システムを利用したオンライン説明会や動画による大学紹介など、様々な手法で広報活動を進めています。



オンライン大学説明会の様子



大学の魅力を動画で紹介

05 Synergy

VISION
CHIBA UNIVERSITY
2015-2021

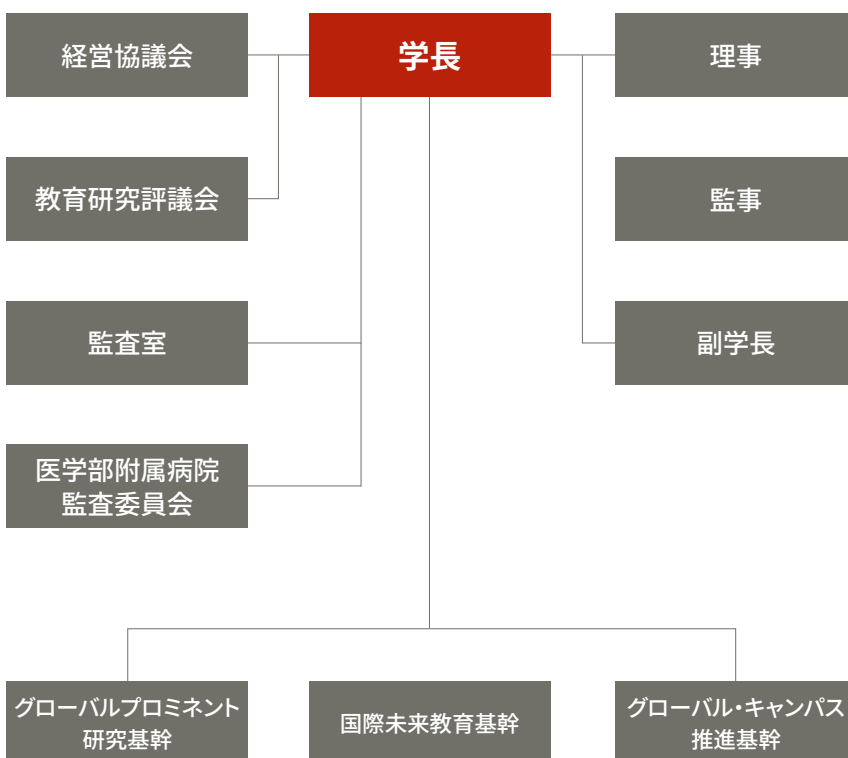
千葉大学のガバナンス体制

千葉大学では、これまでに迅速な意思決定システムと情報共有システムを構築することで戦略的な大学運営に向けたガバナンス機能を強化してきました。

そのほか危機管理に関するPDCAサイクル実施要領を制定する等、コンプライアンスを徹底する大学運営を行うことでリスクマネジメントシステムを充実させています。また、女性教員や外国人教員を積極的に採用し、多様な人材(ダイバーシティ)を活用することで教育研究活動の活性化につなげています。

千葉大学では、学長を中心とする運営組織を基盤としてガバナンス体制を強化するため、経営戦略会議ならびに学長を基幹長とするグローバルプロミネント研究基幹、国際未来教育基幹及びグローバル・キャンパス推進基幹の三基幹を設置し、機動的に問題に対処する体制を整備しました。学長のリーダーシップのもと、大学のビジョンに基づき、学内資源を戦略的に再配分して、効果的・効率的な大学運営を目指しています。

また、経営協議会では有識者や学外からの意見を取り入れるため学外委員を迎え、これまでに学外委員からの意見やステークホルダーからのニーズを適切に法人運営に反映しています。これにより、内部統制機能の構築・運用による法人の健全な業務運営を確保し、社会的信頼に応えています。

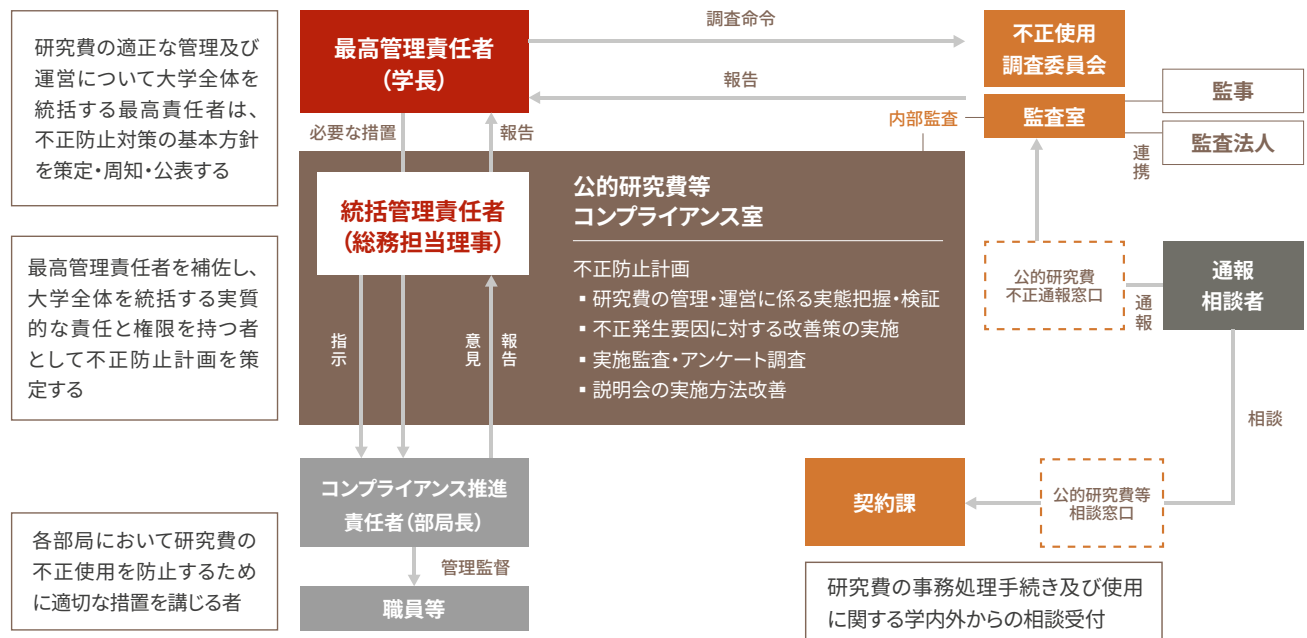


公的研究費等の不正使用 防止に関する取組み

千葉大学では、公的研究費等の財源が税金などの貴重な公的資金によるものであり、厳正な執行・管理が求められるものと考え、文部科学省による「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」で対象としている競争的資金のみならず、受託研究費などについても対象として、公的研究費等の管理・運営体制を整備しています。

具体的には、平成19年9月に「国立大学法人千葉大学における公的研究費の適正な取扱いに関する規程」を制定して学内の責任体系を明確に定め、不正防止計画の策定・推進を担当する公的研究費コンプライアンス室、公的研究費の使用についての相談窓口を設けるとともに、不正に関する通報窓口を設けて、不正使用については調査委員会による厳正な調査により事実関係を明らかにし、もし職員が不正使用に関わっていた場合には厳しく処分することも決めました。

また、平成20年6月には、公的研究費の使用に関する行動規範を定めるとともに、公的研究費の使用に関する不正防止計画を策定してその実施に努めてまいりました。



情報セキュリティマネジメント

千葉大学の情報セキュリティは、平成28年度に策定した「国立大学法人千葉大学情報セキュリティ対策基本計画」に基づき、対策を講じてきました。しかしながら、国立大学法人等における情報セキュリティインシデントの発生件数が年々増加傾向にあること、我が国の安全保障の維持や今後数々の国際イベントが本国で行われることなどの背景を踏まえ、新たに「国立大学法人千葉大学サイバーセキュリティ対策等基本計画」を策定しました。本計画に基づき、千葉大学全体として、中長期的に取り組むべき情報セキュリティ対策を定め、組織的・計画的に実施してまいります。

千葉大学基金

FUND

千葉大学 基金 寄付額

これまでに、**17,824名**の方から、**765,490,529円**のご寄付を頂戴いたしました。

令和2年3月末現在

・千葉大学SEEDS基金

SEEDS=無限の生命力を象徴する種子

・創設・概要

千葉大学は、平成18年に千葉大学基金を創設し、多くの皆様からご協力いただき、平成23年度より事業を開始しました。寄せられた寄付金は、大切に運用しながら、本学の教育研究活動等に活用しています。

・今後の基金事業

01. 将来の優秀な研究者を育成するため、博士後期課程学生のための特別奨学金事業を開始しました。
02. 国際社会で活躍できる次世代型人材を育成するため海外渡航助成事業を増やしました。
03. 地方創生に携わる学生・研究者を応援しています。



奨学金・支援金の給付

約 **3,006** 万円

家計急変者への経済的支援及び経済的に困窮かつ優秀な学生へ奨学金を支給しています



海外渡航の支援

約 **1,189** 万円

学生や若手教員研究者を支援しています



図書館への本の設置

135 万円

学生が購入を希望する学業に関する書籍などを図書館に設置しています



課外活動団体への支援

約 **524** 万円

本学初の日本陸上選手権大会入賞者や、多くの大会で入賞者を輩出しているオリエンテーリング部等、特に顕著な成績を収めた課外活動団体への活動支援を行なっています



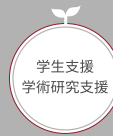
その他

約 **1,023** 万円

松戸キャンパスのアカデミック・リンクの整備や、学部周年記念事業を支援を行っています

令和元年度
支援金額
約 **5,877** 万円

法人様からのご寄付
全額損金額入が可能です



学生支援
学術研究支援

未来の種を蒔く

千葉大学SEEDS基金
SEEDS=無限の生命力を
象徴する種子

「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援事業」ご支援(ご寄付)のお願い

新型コロナウイルスの感染拡大により生活に影響を受けられている皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。事態の一日も早い収束と、皆さまのご健康を心からお祈り申し上げます。

千葉大学においても、感染拡大による影響は甚大で、学生の保護者様の経済状況悪化や学生本人のアルバイト収入の減少によって、学業の継続が困難となる事例や、メディア授業に対応するために通信環境改善のための出費が工面できない等の声が数多く寄せられています。

そこで千葉大学は、これらの学生を支援するため、3億円規模の緊急支援事業を立ち上げました。

皆様方の中にも、新型コロナウイルス感染症によって大きく生活が変動された方もいらっしゃると思います。それを承知しながら、改めてご寄付のお願いを申し上げるのは大変心苦しくありますが、未来を担う学生たちの学びを止めないためには、更なる充実した財政的下支えが必要です。

このたび、教職員や卒業生をはじめとして、個人・団体・法人の皆様より新たなご寄付をいただくことで、学生たちへの支援を力強く継続して参りたいと考えております。

皆様の心温まるご支援をよろしくお願いいたします。



千葉大学長 徳久剛史

支援を受けた学生の声

アルバイトによる収入が全くなり、また家族の収入状況も厳しくなってしまったため、この度、支援をいただくことになり、皆様に大変感謝しております。

千葉県から離れ宮城県で大学の講義を受けていたのですが、ご支援のおかげで快適な環境で講義を受けることができました。

ご支援をいただいたことに恥じぬよう、最後まで真面目に学生生活を送り、卒業後も立派な研究者として自立できるよう努力いたします。

寄付者の声

新しい時代を担う後輩の皆様に、少しでも力になればと思いました。厳しく大変な時ですが、諦めず、共に頑張りましょう！

日本人・外国人を問わず、千葉大学で学ぶ全ての皆さんが安心して学業を継続できることを願っております。知は力となります。支えあって乗り切っていきましょう。

一人の卒業生として千葉大生の皆さんを応援しています。どうか、大学・大学院で自分の志した学問を修め、社会のどこかを支える人間になってください。

📌 お申し込み方法

銀行・ゆうちょ窓口でのご寄付

千葉大学基金室(043-290-2014)までご連絡ください。
お名前・ご住所をお伺いし、振込用紙を送付いたします。

クレジットカードでのご寄付

千葉大学SEEDS基金のホームページからご寄付をお願いいたします。

古本募金によるご寄付

千葉大学SEEDS基金のホームページから「古本募金」へお進みください。
※現在、一部業務を縮小して対応しています。

遺贈によるご寄付

遺贈によるご寄付も承っております。
詳しくは、千葉大学基金室(043-290-2014)までご連絡ください。

お問い合わせ先 **千葉大学基金室**

☎ 043-290-2014

ご不明な点がございましたら、遠慮なくお問い合わせください。

FAX 043-284-2550

メール kikin@office.chiba-u.jp

ホームページ <https://kikin.chiba-u.ac.jp> **千葉大学SEEDS基金**

住所 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33



▲QRコードからもアクセスできます

医学部附属病院

HOSPITAL

■ 地域の「最後の砦」として 医療現場を守り、命を救う



千葉大学病院は、千葉県の要請を受け、新型コロナウイルス感染症の治療にあたっています。感染症専用の陰圧室5床に加え、一般病棟46床(※1)もコロナ専用として確保し、重症患者を中心に受け入れています。4月～5月の第1波では、入院患者数が33名に及んだ日もありました。

当院は、感染症に対応しながら、感染症以外の高難度医療も継続する方針です。可能な限り、手術や検査などを制限せず、通常診療を続けていきます。そのために、院内感染が起きないように、感染症専門医や認定看護師が中心となって感染症の患者さんと接触者と、それ以外の一般の患者さんとの領域を明確に分ける「ゾーニング」をしっかりと行うとともに、患者さんや職員の感染対策(マスク着用、手指衛生など)の徹底、入院中の患者さんへの面会禁止などを行っています。

なお、第1波では医療資材が不足し、職員は非常に不安な中で働いていましたが、多くの皆様からご寄付、ご寄贈、力強い励ましをいただき、乗り切ることができました。心から感謝申し上げます。

※1 2020年8月現在



感染のリスクを考慮し、救急搬送の患者さんには、防護具を着て対応

■ 遠隔モニタリングで 突然死から守る

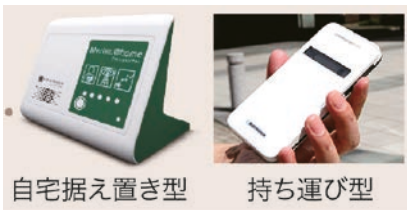


不整脈は、心臓のリズムが狂ってしまう病気で、心不全や脳梗塞などを引き起こすことがあります。当院の循環器内科不整脈チームでは、心臓突然死を予防する自動除細動器付きペースメーカーを使う治療に「遠隔モニタリングシステム」を導入しています。

これは、患者さんが病院以外の場所で過ごしているときに、危険な不整脈を起したり、電気ショック治療が行われた場合に、不整脈データが自動で病院に送信されるシステムです。患者さんに危険がある場合、医師と臨床工学技士、看護師が一体となって早期に救急対応を行い、突然死から患者さんを守っています。



カンファレンスで遠隔モニタリングのデータをチェック



自宅据え置き型

持ち運び型

ICD・CRTD(除細動器付きペースメーカー)の患者さんに使用している遠隔モニタリング機器

■ 台風15号で千葉大学病院の 災害派遣医療チームが活動



2019年9月8日の台風15号では、当院でも倒木などの被害がありましたが、千葉県内の多くの医療機関が被災し、水道・電気の供給が止まっている状態で、暑さによる熱中症も心配され、患者さんを一刻も早く搬送する必要があります。

9月9日、当院に千葉・市原・山武長生夷隅のエリアで医療機関を支援するDMAT(Disaster Medical Assistance Team)の活動拠点本部を設置し、県内外から駆け付けたDMATとともに、約90の医療機関に被災状況を確認し、被災病院からの患者搬送や避難所支援などを行いました。

私たちは、地域の医療を守るのが使命です。定期的に訓練を重ね、各自自治体との連携を強化することで、災害時でも継続して医療行為ができるように取り組んでいます。



集中治療部 部長 阿部 隆三 准教授
(DMATメンバー)



県内外からDMATが続々と駆け付けた対策本部被災情報をもとに支援を実施

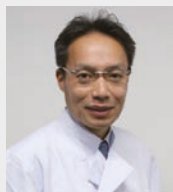
■ 国内初、再生医療による腰痛治療の他施設共同治験を開始

腰痛の主な原因として椎間板障害があります。椎間板の老化は、20歳を過ぎた頃から始まるため、働き盛りの20～50代に発症しやすく、労働生産性の低下が問題となっています。

これまで椎間板障害の治療法は、痛みに対する対症療法や椎間板切除術、脊柱固定術などが行われてきました。この治験では、再生医療に注目し、生物学的に修復・再生する手法として細胞治療を行います。具体的には、痛み始めた椎間板を早期に発見し、患者の損傷した椎間板に細胞治療製品 (IDCT-001) を投与し、修復・再生を促す治療について、安全性および有効性を評価します。



超高齢化社会に伴い、今後一層、腰痛患者さんが増加すると予想されます。腰痛の症状が強いと、日常生活動作が困難になり、生活の質 (QOL) が著しく低下します。これまで、痛みに対して鎮痛剤の服用やマッサージ療法など、一時的な治療しかありませんでしたが、椎間板再生医療の治験により、傷んだ椎間板が修復・再生され、根治的治療につながると期待しています。



整形外科長
大鳥 精司 教授

■ 移行期医療支援センターを開設 成長に合わせて切れ目なく支援

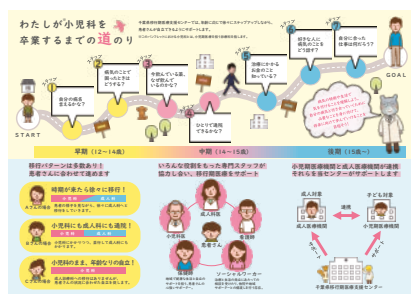
小児慢性疾患を持つ患者さんが、小学生、中学生、高校生と成長していくなかで、大人の病気も発症していくことがあります。そのため、小児科の医療スタッフは、大人の病気をみる診療科と協力して、からだの状態にふさわしい治療を行います。

これを「移行期医療」といいます。当院の移行期医療支援センターは、千葉県から委託



を受けて立ち上げた事業です。

年齢に応じて徐々にステップアップをしながら患者さんが自立できるようにサポートします。



移行期医療支援センターパンフレット

小児慢性疾患の患者さんが成人したあとも、安心して医療を受け続けることができるよう、移行先の医療機関等をホームページで紹介します。小児期医療機関を訪問してご説明するな



ど、移行期医療へのご理解を広げる旗振り役になっていきたいと考えています。

移行期医療支援センター長
桑原 聡 教授

■ 医療現場のニーズを逃さずキャッチ メドテック・リンクセンター

先進医療を広く行う大学病院には多様な新規医療ニーズが眠っており、医療現場から創出されるアイデアは豊富であるものの、これを形にすることが難しいのが現状です。

そこで、特色あるものづくりに取り組む企業の方々に、その経験と技術を医療の現場で生かしていただき、新しい医療機器の開発につなげたいと考えています。

例えば、当センターでは、医療機器開発に関心のある企業の方に、医療現場を実際に体験いただく病院見学会や、先端医療に関する解説講座、ニーズ・マッチング会などのプログラムを運営しています。

これまでの医療機器は、現場の医療スタッフの目線で作られたものは少なく、また、患者さんに対しても優しいものばかりではありませんでした。そこで、医療の現場から提案する、新たな医療機器開発を目指し

メドテック・リンクセンター長
林 秀樹 教授



形成・美容外科カンファレンスで、医師 (右端) の説明を真剣に聞く企業の方々

財務情報

FINANCIAL INFORMATION





令和元事業年度決算

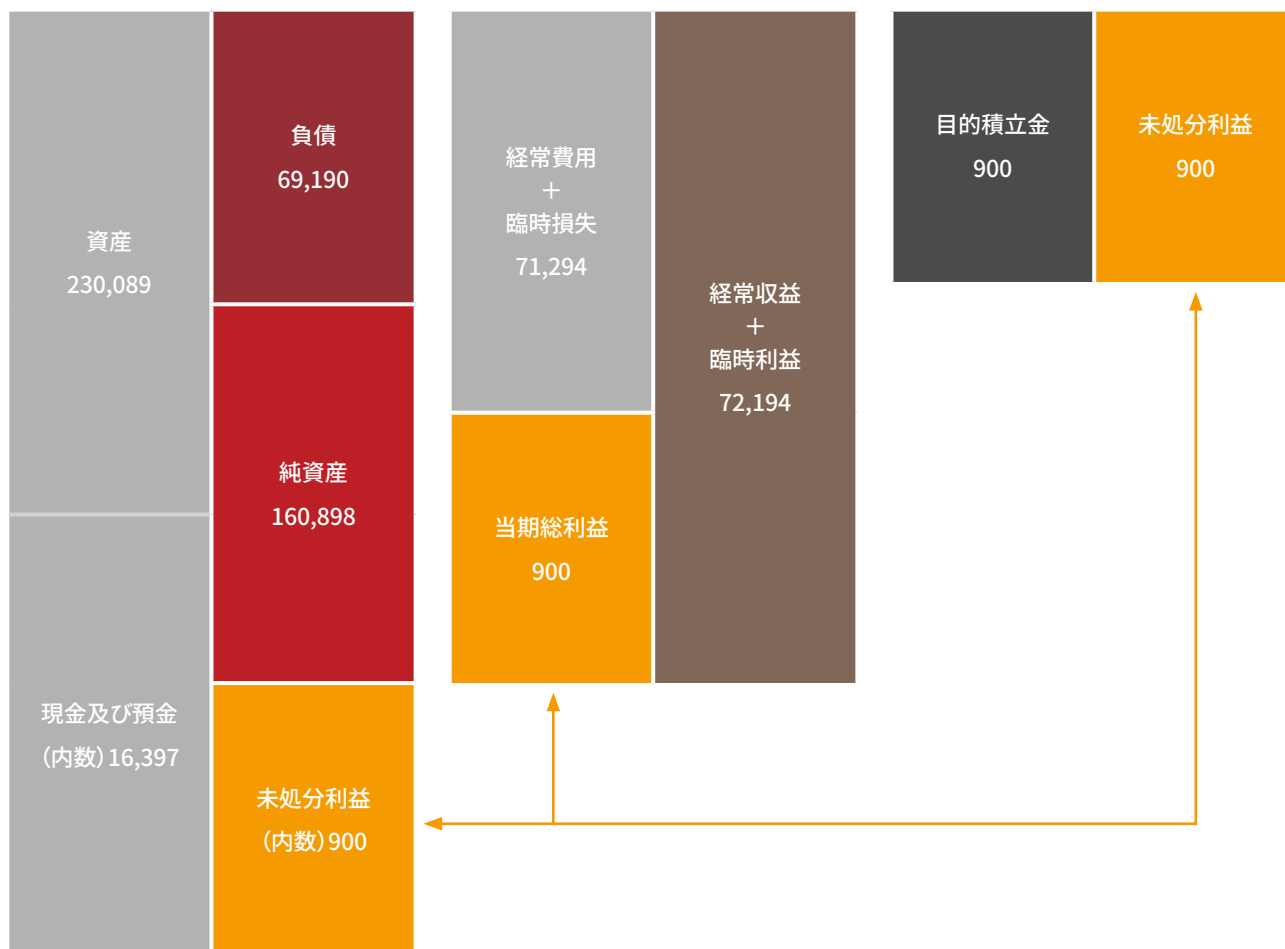
SETTLE ACCOUNTS 2019



令和2年3月31日における本学の財政状態を示すもので、平成16年の法人化移行時に国から引き継いだものも含めて、すべての資産、負債及び純資産の状況を表します。

平成31年4月1日～令和2年3月31日の本学の事業規模を明らかにするもので、本学の教育・研究等の業務運営に要した費用、運営費交付金・自己収入等による収益や利益の発生状況を表します。

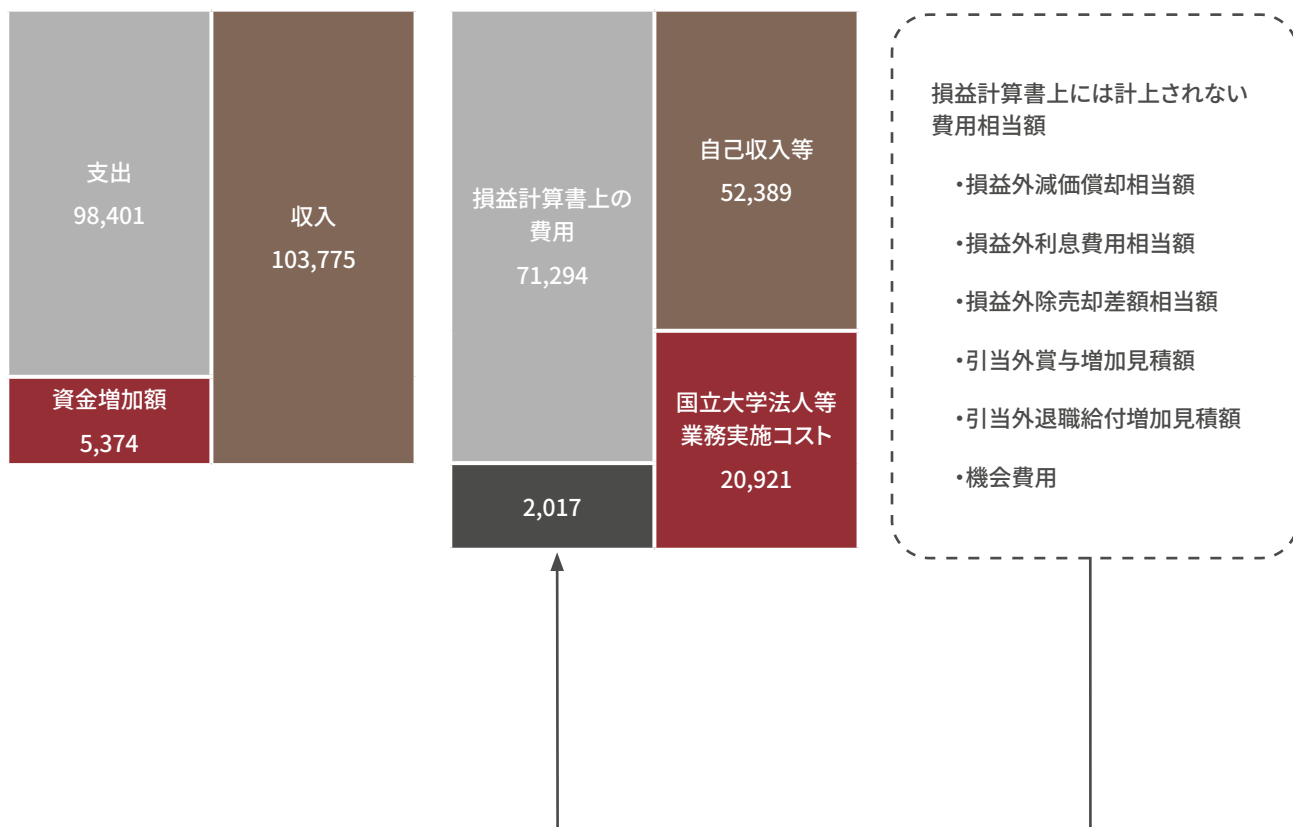
損益計算書により算定された当期末処分利益の処理内容を表します。



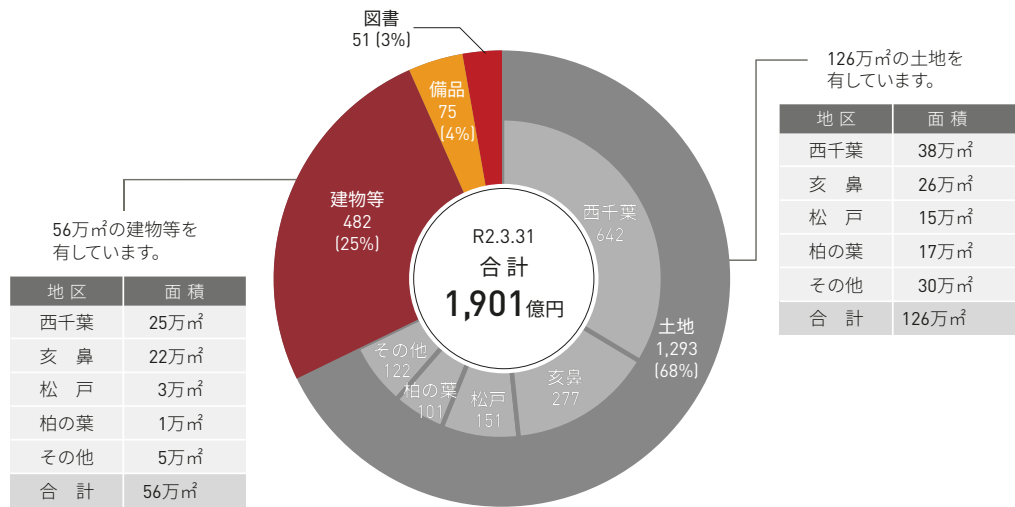


平成31年4月1日～令和2年3月31日における本学の資金の流れを、一定の活動別に区分して表します。

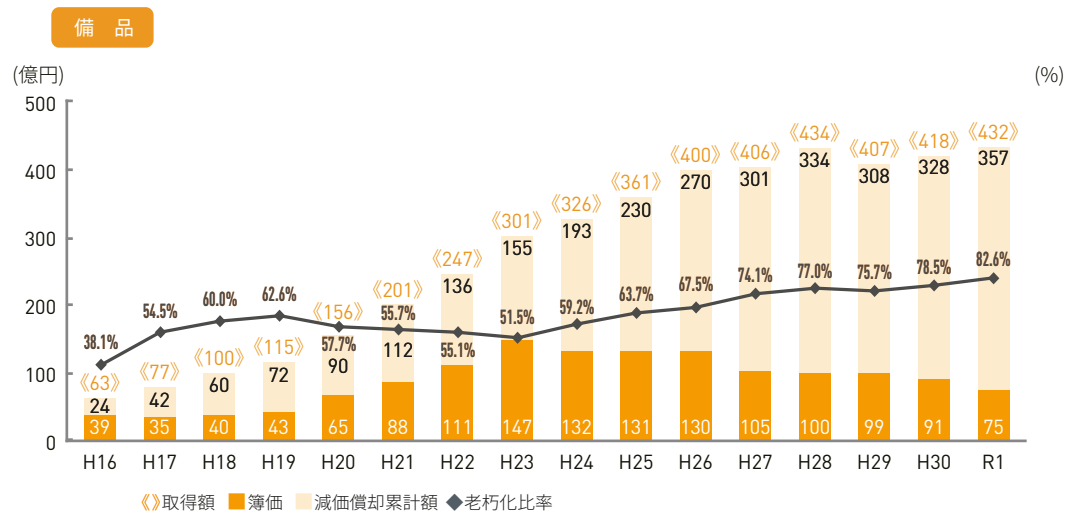
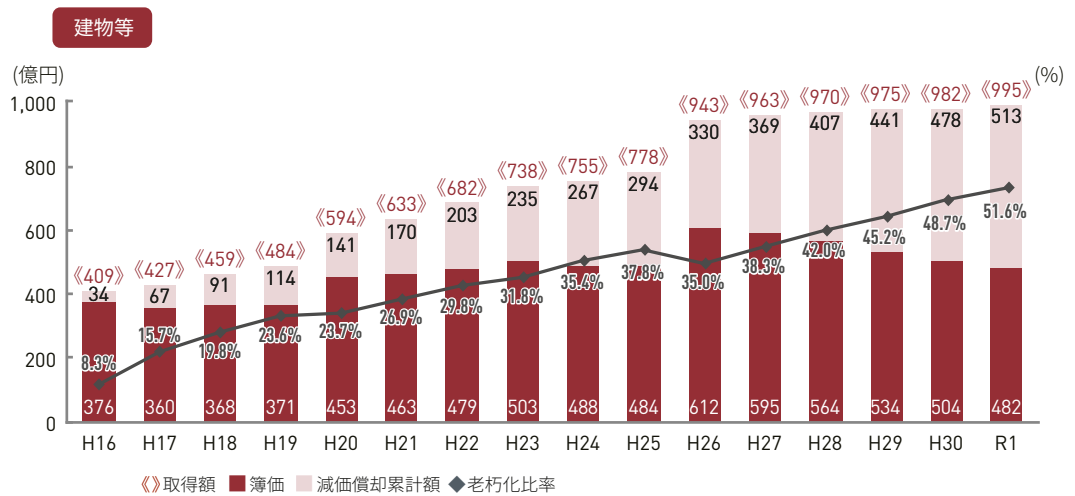
本学の教育・研究等の業務運営に要した費用のうち、どの程度国民負担により賄われたかを表します。



2. 主要な有形固定資産の内訳



施設等取得額・老朽化比率の年度別推移



02 損益計算書の概要

1. 損益計算書

損益計算書は大学の運営状況を明らかにするものです。事業活動を行うためにかかった費用（教育・研究経費、診療経費等）とそれに充当した収益（運営費交付金収益、学生納付金収益、附属病院収益等）を示しています。

（単位：億円）

経常費用			経常収益		
教育経費	29	(30)	運営費交付金収益※2	173	(177)
研究経費	36	(37)	学生納付金収益	83	(83)
診療経費※1	235	(227)	附属病院収益※3	363	(355)
教育研究支援経費	13	(12)	外部資金	60	(59)
受託研究費等	32	(32)	機関補助金	11	(11)
人件費	345	(348)	その他	28	(27)
一般管理費	17	(17)			
その他	1	(1)			
経常費用合計	708	(705)	経常収益合計	718	(712)
臨時損失	5	(3)	臨時利益	4	(2)
			目的積立金取崩等	-	-
計	713	(708)	計	722	(715)

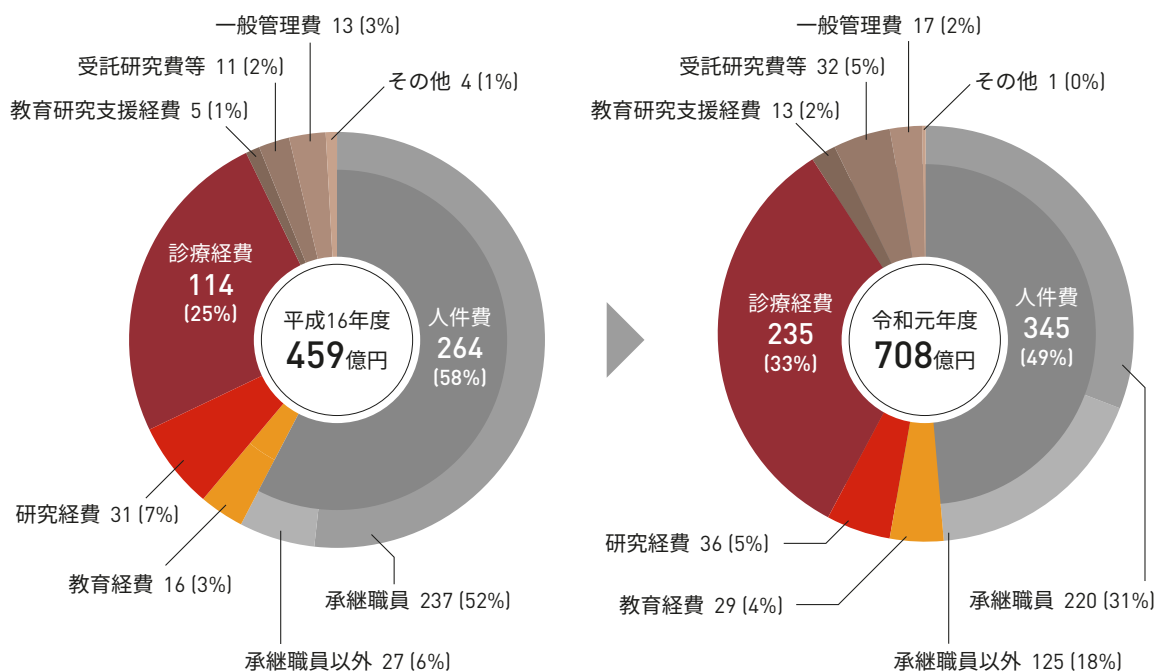
当期総利益(損失)	9	(6)
-----------	---	-----

単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

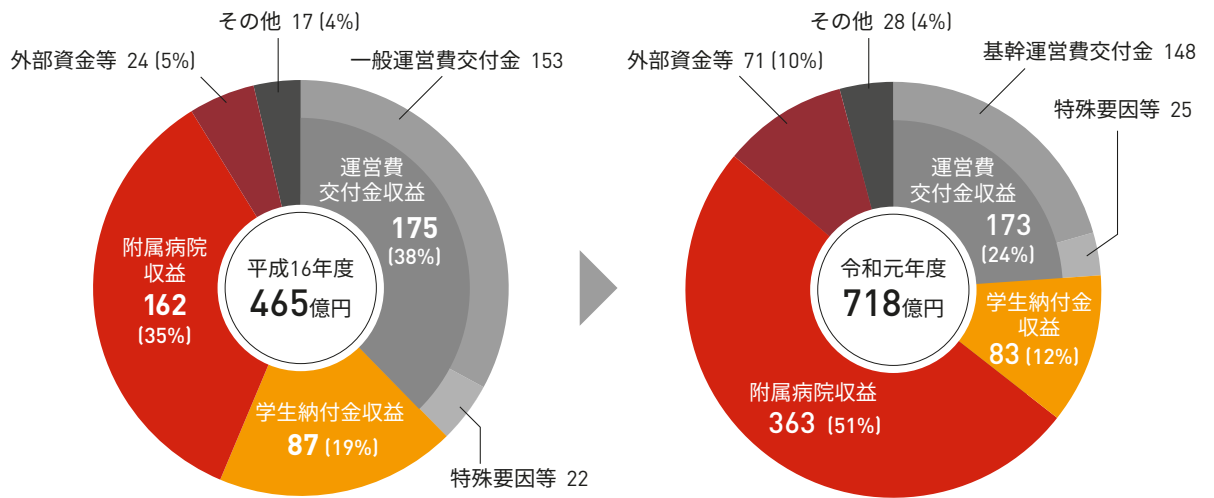
()は平成30事業年度

- 高額医療の実施に伴う注射薬や診療材料の購入に伴い、診療経費が増加しています。（※1）
- 業務達成基準の適用による学内プロジェクトの翌年度繰越に伴い、運営費交付金収益が減少しています。（※2）
- 入院診療単価の上昇や平均在院日数の維持、外来診療単価の上昇等に伴い、附属病院収益が増加しています。（※3）

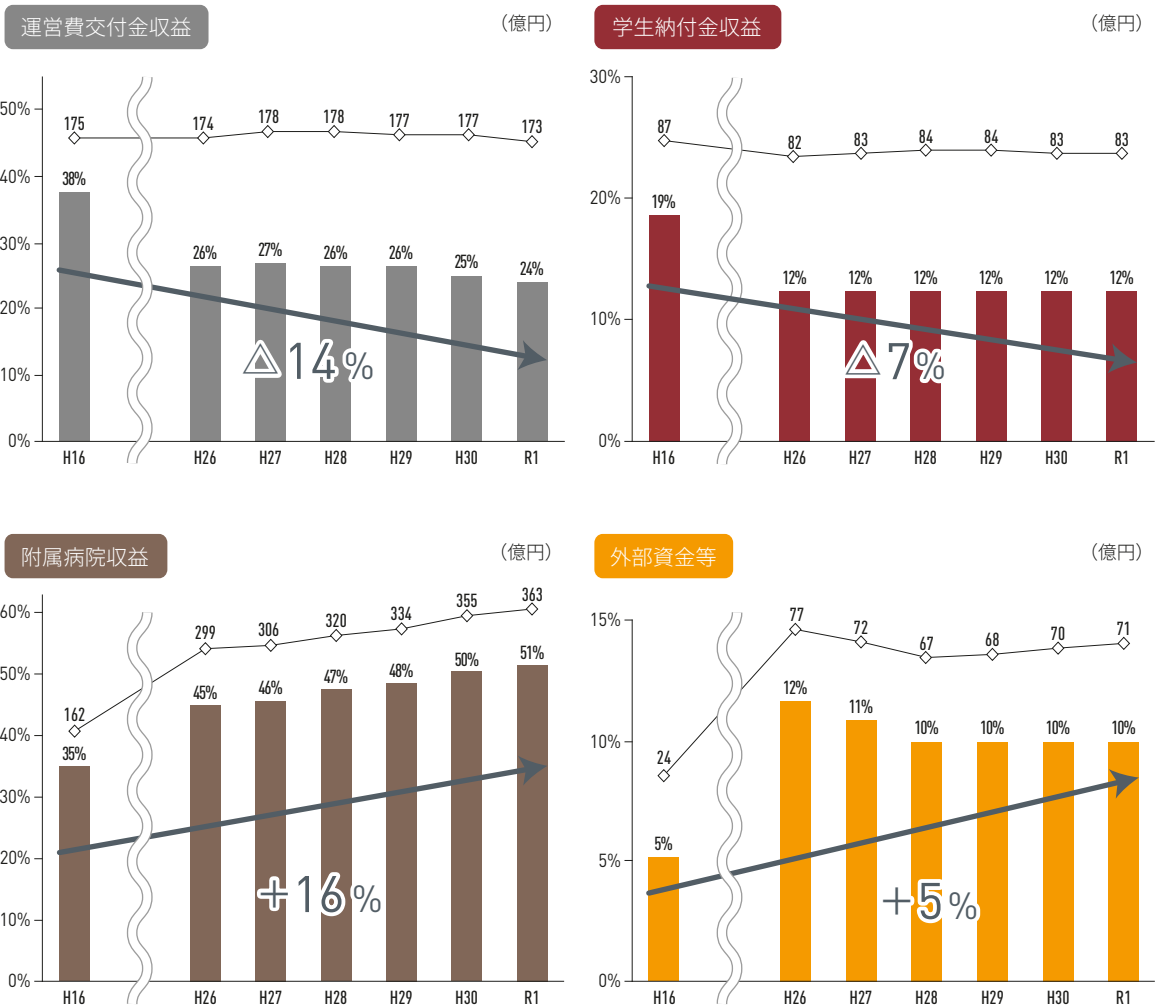
2. 主要な経常費用（シェア）の推移



3. 主要な経常収益（シェア）の推移



平成16年度（国立大学法人化の初年度）と比べ、経常収益合計に占める運営費交付金収益のシェアが減少しています。その一方で、附属病院収益・外部資金等のシェアが増加しています。



03 財務指標

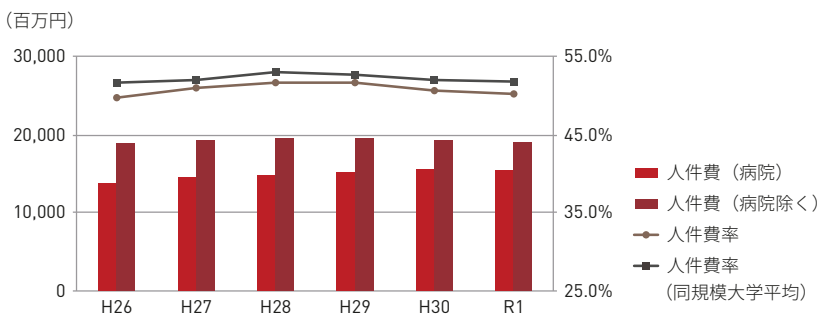
財務指標とは

財務指標とは財政状態や運営状況を財務諸表の計数を用いて計算し数値化したものです。

本学では、今後の大学運営の改善や取組の参考とするために、令和元事業年度における同規模大学と比較分析を行っています。

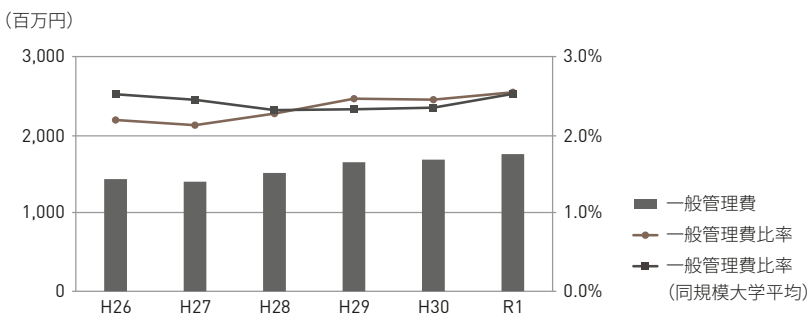
財務指標から見た同規模大学との比較分析

1. 人件費比率【効率性】		H26	H27	H28	H29	H30	R1
指標の内容【計算式】	項目						
業務費に占める人件費の割合を示す指標であり、比率が低いほど効率性が高いとされています。 【人件費÷業務費】	人件費率	49.7%	50.8%	51.6%	51.7%	50.6%	50.0%
	人件費率(同規模大学平均)	51.7%	52.0%	52.9%	52.5%	52.1%	51.7%
	人件費(病院除く)(百万円)	18,816	19,101	19,538	19,448	19,245	19,027
	人件費(病院)(百万円)	13,745	14,436	14,861	15,206	15,526	15,469
	業務費(百万円)	65,475	66,007	66,617	67,019	68,654	68,967



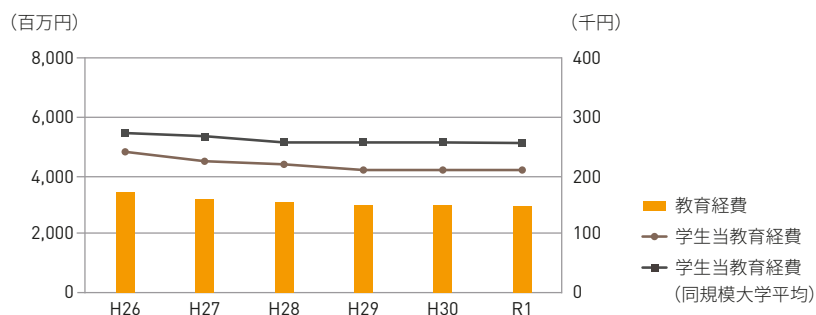
—POINT—
人件費比率は、人事院勧告の影響による増加があったものの、常勤教員や看護師等の採用の抑制等により、平成30年度より0.6%減の50.0%となりました(同規模6大学中で2番目に低い値)。本学では、業務の改善や効率化を推進するとともに、時間外勤務の削減等に引き続き取り組んでまいります。

2. 一般管理費比率【効率性】		H26	H27	H28	H29	H30	R1
指標の内容【計算式】	項目						
業務費に占める一般管理費の割合を示す指標であり、比率が低いほど効率性が高いとされます。 【一般管理費÷業務費】	一般管理費比率	2.2%	2.1%	2.3%	2.4%	2.4%	2.5%
	一般管理費比率(同規模大学平均)	2.5%	2.4%	2.3%	2.3%	2.3%	2.5%
	一般管理費(百万円)	1,426	1,394	1,505	1,641	1,673	1,745
	業務費(百万円)	65,475	66,007	66,617	67,019	68,654	68,967



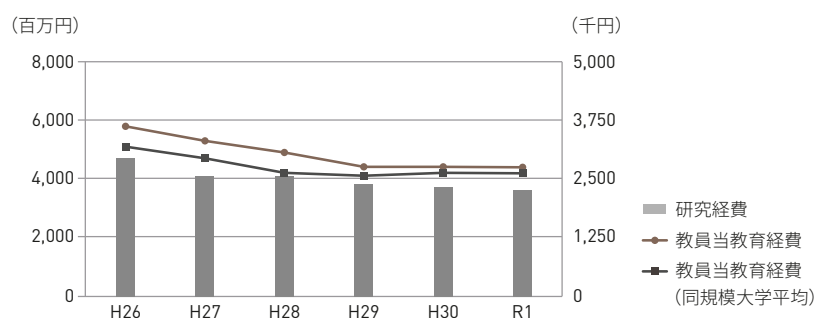
—POINT—
一般管理費は、事務用端末のデスクトップ仮想化を実施したことによる委託費や保守費、令和元年7月の事務組織再編に伴い事務室内の設備や什器等を移設及び新設したことに伴う物品費や委託費等の増加等により、平成30年度より0.1%増の2.5%となりました(同規模6大学中で4番目に低い値)。

3. 学生当教育経費【活動性】		H26	H27	H28	H29	H30	R1
指標の内容【計算式】	項目						
学生一人当たりの教育経費を示す指標であり、この数値が高いほど学生一人当たりにかけられた教育経費が大きいことを示します。 【教育経費÷学生数】	学生当教育経費（千円）	238	222	217	210	209	209
	学生当教育経費（千円） （同規模大学平均）	271	269	256	258	258	257
	教育経費（百万円）	3,411	3,176	3,074	2,973	2,969	2,933
	学生人数（人）	14,308	14,242	14,163	14,114	14,169	13,983



—POINT—
学生当教育経費は、学内予算措置及び補助金の獲得により教育資金は増加したものの、教育関係の設備、備品の減価償却費が減少したことで教育経費が減少し、学生数も減少したこと等から、平成30年度と横ばいの209千円となりました（同規模6大学中で4番目に高い値）。今後、より一層の教育環境の整備・充実に努めてまいります。

4. 教員当研究経費【活動性】		H26	H27	H28	H29	H30	R1
指標の内容【計算式】	項目						
教員一人当たりの研究経費を示す指標であり、この数値が高いほど教員一人当たりが使用した研究経費が大きいことを示します。 【研究経費÷教員数】	教員当研究経費（千円）	3,616	3,294	3,051	2,771	2,761	2,707
	教員当研究経費（千円） （同規模大学平均）	3,168	2,942	2,613	2,541	2,618	2,609
	研究経費（百万円）	4,727	4,164	4,132	3,772	3,729	3,629
	教員数（人）	1,307	1,264	1,354	1,361	1,350	1,340



—POINT—
教員当研究経費は、奨学寄附金の増加により研究資金は増加したものの、研究関係の設備、備品の減価償却費が減少したこと等から、平成30年度より54千円減の2,707千円となりました（同規模6大学中で3番目に高い値）。今後、より一層の研究環境の整備・充実に努め、引き続き研究経費の確保に取り組んでまいります。

- ※1 同規模大学は、千葉、筑波、金沢、神戸、岡山、広島6の国立大学としております。
- ※2 財務諸表の計数については、各大学のホームページにて公開の財務情報より算出しています。
- ※3 学生当教育経費の学生数は、各事業年度の5月1日現在における学士課程、修士課程、博士課程、専門職学位課程の在籍者の数としています。
- ※4 教員当研究経費の教員数は、財務諸表附属明細書「役員及び教職員の給与の明細」における常勤の教員（任期付き教員を含む）の数としています。
- ※5 「学生当教育経費」「教員当研究経費」は、それぞれ財務諸表上の教育経費、研究経費を学生数、教員数で割ったものであり、教職員の人件費や一般管理費等は含まれていません。

04 セグメント情報

1. 損益状況について（附属病院セグメントを除く）

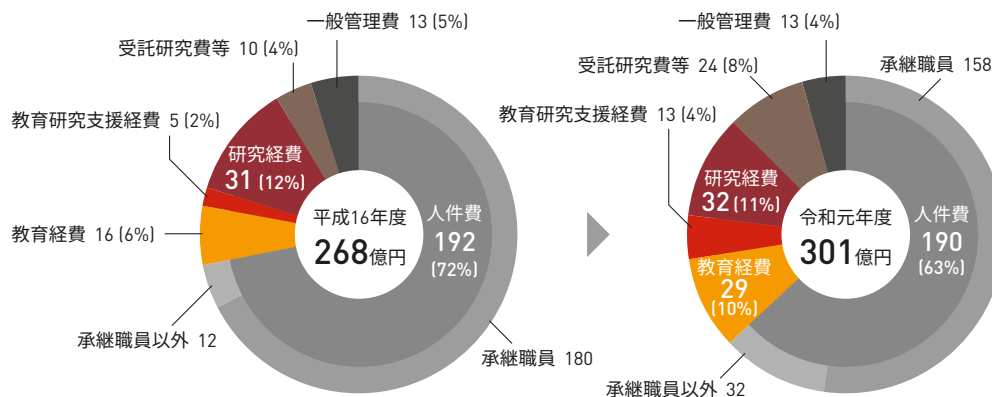
（単位：億円）

経常費用			経常収益		
教育経費	29	(29)	運営費交付金収益	142	(145)
研究経費	32	(33)	学生納付金収益	83	(83)
教育研究支援経費	13	(12)	外部資金	49	(50)
受託研究費等	24	(26)	機関補助金	7	(7)
人件費	190	(192)	その他	22	(21)
一般管理費	13	(12)			
その他	0.02	(0.02)			
経常費用合計	301	(306)	経常収益合計	303	(305)
臨時損失	5	(0.7)	臨時利益	4	(0.1)
			目的積立金取崩等	-	-
計	306	(306)	計	307	(305)
当期総利益(損失)			1 [△0.7]		

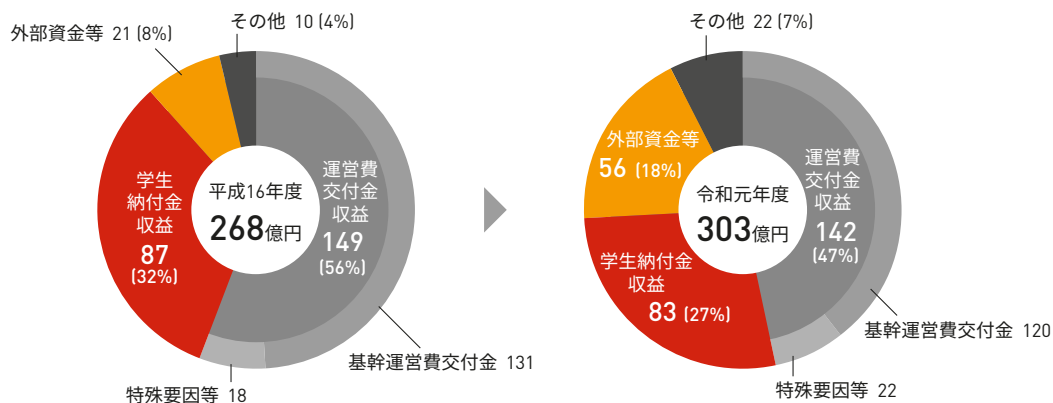
単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

国立大学法人は公共的な性格を有し、利益の獲得を目的としないため、通常の業務を行えば損益が均衡するように制度設計されています。

2. 主要な経常費用（シェア）の推移



3. 主要な経常収益（シェア）の推移



4. 附属病院セグメントの損益状況について

(単位：億円)

経常費用			経常収益		
教育経費	0.4	(0.4)	運営費交付金収益	30	(32)
研究経費	4	(4)	附属病院収益	363	(355)
診療経費	235	(227)	外部資金	12	(10)
受託研究費等	7	(7)	機関補助金	4	(3)
人件費	155	(155)	その他	6	(7)
一般管理費	4	(4)			
その他	1	(1)			
経常費用合計	407	(399)	経常収益合計	415	(407)
臨時損失	0.1	(3)	臨時利益	0.1	(2)
			目的積立金取崩等	-	-
計	407	(402)	計	415	(409)
当期総利益(損失)			8		

単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある。

〔 〕は平成30事業年度

附属病院においては、対価を伴う業務により収益が計上されるため、企業会計と同様の会計処理を行います。

附属病院セグメントにおいては、入院診療単価の上昇や平均在院日数の維持、外来診療単価の上昇等に伴い附属病院収益が増加したことなどにより、約8億円の当期総利益となりました。

5. セグメント別の損益情報

(単位：百万円)

区 分	(人文社会科学系) 学部・研究科等	(理工学系) 学部・研究科等	(生命科学系) 学部・研究科等	共通施設等	真菌医学研究 センター	環境リモート センシング 研究センター	附属学校	医学部 附属病院	小 計	法人共通	合 計
業務費用											
業務費	4,394	8,296	7,262	1,582	469	490	1,017	40,153	63,661	5,306	68,967
教育経費	520	999	535	21	0	3	152	41	2,271	661	2,933
研究経費	158	1,327	1,290	33	131	109	0	449	3,497	131	3,629
診療経費	-	-	-	-	-	-	-	23,451	23,451	-	23,451
教育研究支援経費	-	0	-	1,110	-	-	-	-	1,110	157	1,268
受託研究費	58	343	805	-	98	156	1	517	1,979	33	2,012
共同研究費	7	385	141	1	23	12	-	68	635	1	636
受託事業費等	26	57	293	5	-	3	0	158	541	2	543
人件費	3,625	5,184	4,198	412	216	207	864	15,469	30,176	4,320	34,496
一般管理費	74	225	128	4	7	3	1	429	870	875	1,745
財務費用	-	-	0	-	-	-	-	114	114	1	114
雑損	-	0	0	-	1	-	-	0	1	0	1
小 計	4,468	8,520	7,390	1,586	477	493	1,017	40,695	64,646	6,181	70,827
業務収益											
運営費交付金収益	2,865	3,957	2,833	342	173	144	646	3,049	14,010	3,257	17,267
学生納付金収益	2,892	3,964	1,397	-	-	1	10	-	8,264	-	8,264
附属病院収益	-	-	-	-	-	-	-	36,349	36,349	-	36,349
受託研究収益	67	437	1,040	-	120	185	1	670	2,520	41	2,561
共同研究収益	9	506	200	1	30	16	-	83	845	1	846
受託事業等収益	27	65	306	5	-	3	0	173	579	3	582
寄附金収益	35	300	809	2	30	9	29	213	1,427	36	1,463
施設費収益	1	14	4	71	2	-	41	17	149	19	168
補助金等収益	36	37	188	5	7	-	-	375	649	280	929
資産見返負債戻入	71	529	303	145	34	47	18	222	1,369	256	1,625
財務収益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	20
雑益	119	360	268	11	15	8	1	353	1,134	597	1,731
小 計	6,121	10,169	7,348	582	411	413	746	41,505	67,295	4,510	71,805
業務損益	1,653	1,649	△42	△1,004	△65	△80	△271	809	2,649	△1,671	978

単位未満四捨五入のため、計が一致しない場合がある

各セグメントに属する主な部局等は以下のとおり

(人文社会科学系)：国際教養学部、教育学部、人文科学研究院、社会科学研究院 (理工学系)：園芸学研究所、理学研究院、工学研究院
(生命科学系)：看護学研究所、医学研究院、薬学研究院 (共通施設等)：附属図書館、統合情報センター



CHIBA UNIVERSITY

〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33
国立大学法人千葉大学

www.chiba-u.jp

Copyright (C)2020 Chiba University. All Rights Reserved.